

■「悩みやいじめに関するアンケート調査」の分析結果について■

札幌市教育委員会 学校教育部 児童生徒担当課

1 調査目的

本調査は、子ども自身の受け止めに重視して行うものであり、児童生徒の実態や各校の取組状況をより適切に把握し、いじめの問題の早期発見、対処の取組に資することを目的とする。

2 調査対象と回収率

| | 小学校（分校含む） | 中学校（分校含む） | 高等学校（定時制含む） | 特別支援学校 | 合計 |
|--------------|-----------|-----------|-------------|--------|----------|
| 学校数 | 199校 | 100校 | 8校 | 5校 | 312校 |
| 児童生徒数 | 88,651人 | 44,137人 | 6,592人 | 329人 | 139,709人 |
| 調査提出児童生徒数 | 87,122人 | 40,674人 | 6,213人 | 323人 | 134,332人 |
| 回収率 | 98.3% | 92.2% | 94.3% | 98.2% | 96.2% |
| 《参考》令和3年度回収率 | 99.0% | 94.1% | 95.5% | 95.2% | 97.3% |

※中等教育学校の前期課程（1～3年次）は中学校、後期課程（4～6年次）は高等学校に含む

3 調査実施日程等

- | | |
|-----------------|---------------------|
| (1) 学校への調査依頼通知日 | 令和4年10月4日（火） |
| (2) 児童生徒調査用紙配布日 | 令和4年11月4日（金）＜調査実施日＞ |
| (3) 児童生徒調査用紙回収日 | 令和4年11月7日（月） |
| (4) 市教委への調査用紙提出 | 令和4年11月24日（木） |

4 調査内容及び方法等

- 札幌市全体のいじめに関する実態や対応状況について把握し今後の取組に資するとともに、各学校における、いじめの防止、早期発見、対処の取組が一層進むよう本調査を実施することとする。
いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうることや、いじめが背景事情として認められる自殺事案が全国で発生していることなどから、いじめ根絶に向けて、子どもの悩みやいじめの状況等についての的確に把握し、速やかに適切な対応をすることが重要と考える。
- 調査用紙は、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーの助言のもと作成した。学校用と児童生徒用の2種類を用意し、児童生徒用については、発達の段階を踏まえ、設問事項の表現等に配慮した上で、全校種共通のものとした。
- 児童生徒用調査用紙は、いじめの早期発見・適切な対処の観点から記名式とし、さらに、プライバシー保護に配慮し、各家庭で記入し、添付の封筒に入れ封をした上で学校に提出することとした。ただし、何らかの事情により、無記名を希望する、または提出を希望しない保護者や児童生徒がいる場合、その意向を尊重することとした。
- 学校では、アンケート調査実施後、原則、全ての児童生徒に対して、学級担任などによる個別面談（教育相談）を実施し、いじめ以外にも考えられる様々な悩みについても聞き取るなどした。また、いじめにかかわる回答に対しては、関係する全ての児童生徒に対し、関係児童生徒の気持ちに配慮しながら慎重に事実確認を行い、その内容を関係保護者に伝えるとともに学校いじめ対策組織において検討し、関係保護者と連携を図りながらいじめ解消に向けた対応を行った。
- 本調査では、いじめの実態を多面的に把握する観点から、児童生徒に直接質問する調査の他に、様々な理由から自己申告できない児童生徒もいることを予想し、自己申告されたもの以外に、他の方法により、学校が「いじめが疑われる」と判断している数についても調査することとした。加えて、児童生徒への調査において「最近いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか」という質問も設け、本人以外からの情報も活用できるように配慮した。

注1) 分析に当たっては、校種別（定時制高校4年生は高校3年生に組込）を基本とし、本市のスクールカウンセラースーパーバイザーなどからの助言等も参考にした。なお、特別支援学校のデータは各校種のデータに加算した。

注2) 児童生徒調査における、各項目の数値については、無回答の場合もあるため、回答数の合計と調査提出児童生徒数は必ずしも一致していない。

5 調査結果と考察

＜児童生徒の意識調査の結果と考察＞

1 あなたは、学校が楽しいですか。

【設問1】 あなたは、学校が楽しいですか。
ア はい イ いいえ

「はい」・「いいえ」の割合

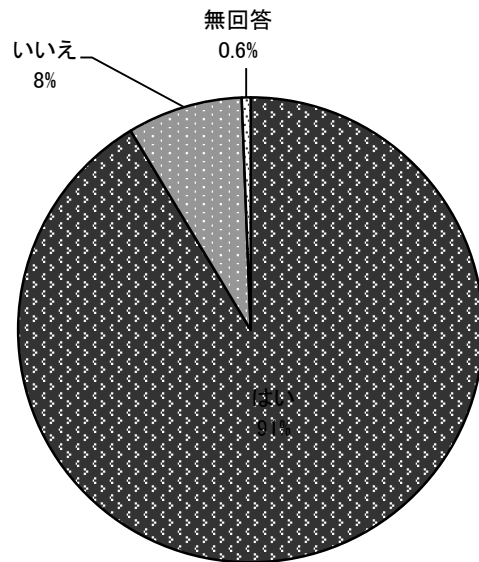
校種別人数 (人)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|------------|--------|--------|-------|---------|
| はい | 80,559 | 36,293 | 5,885 | 122,737 |
| いいえ | 5,944 | 4,244 | 585 | 10,773 |
| ※調査提出児童生徒数 | 87,146 | 40,693 | 6,493 | 134,332 |

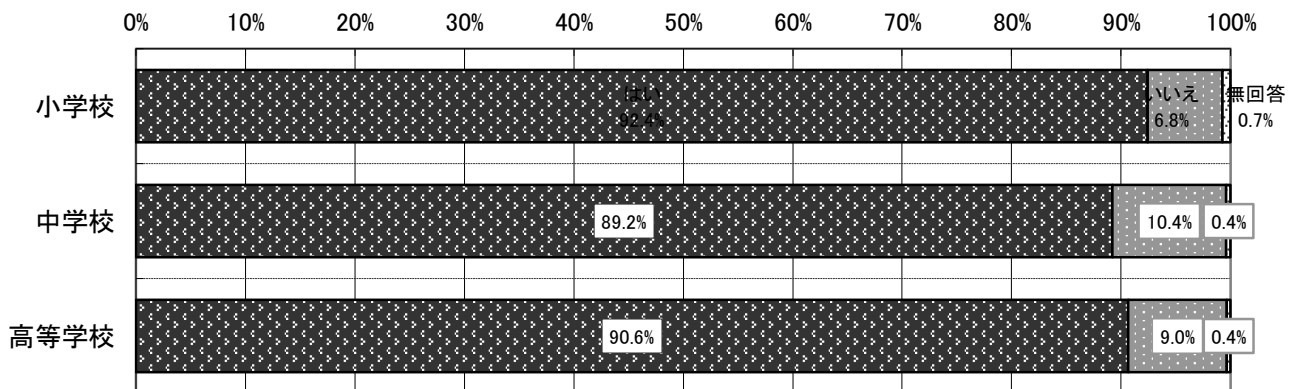
※「調査提出児童生徒数」については、これ以降「調査提出数」と記する。

校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| はい | 92.4% | 89.2% | 90.6% | 91.4% |
| いいえ | 6.8% | 10.4% | 9.0% | 8.0% |



「はい」・「いいえ」の校種別割合

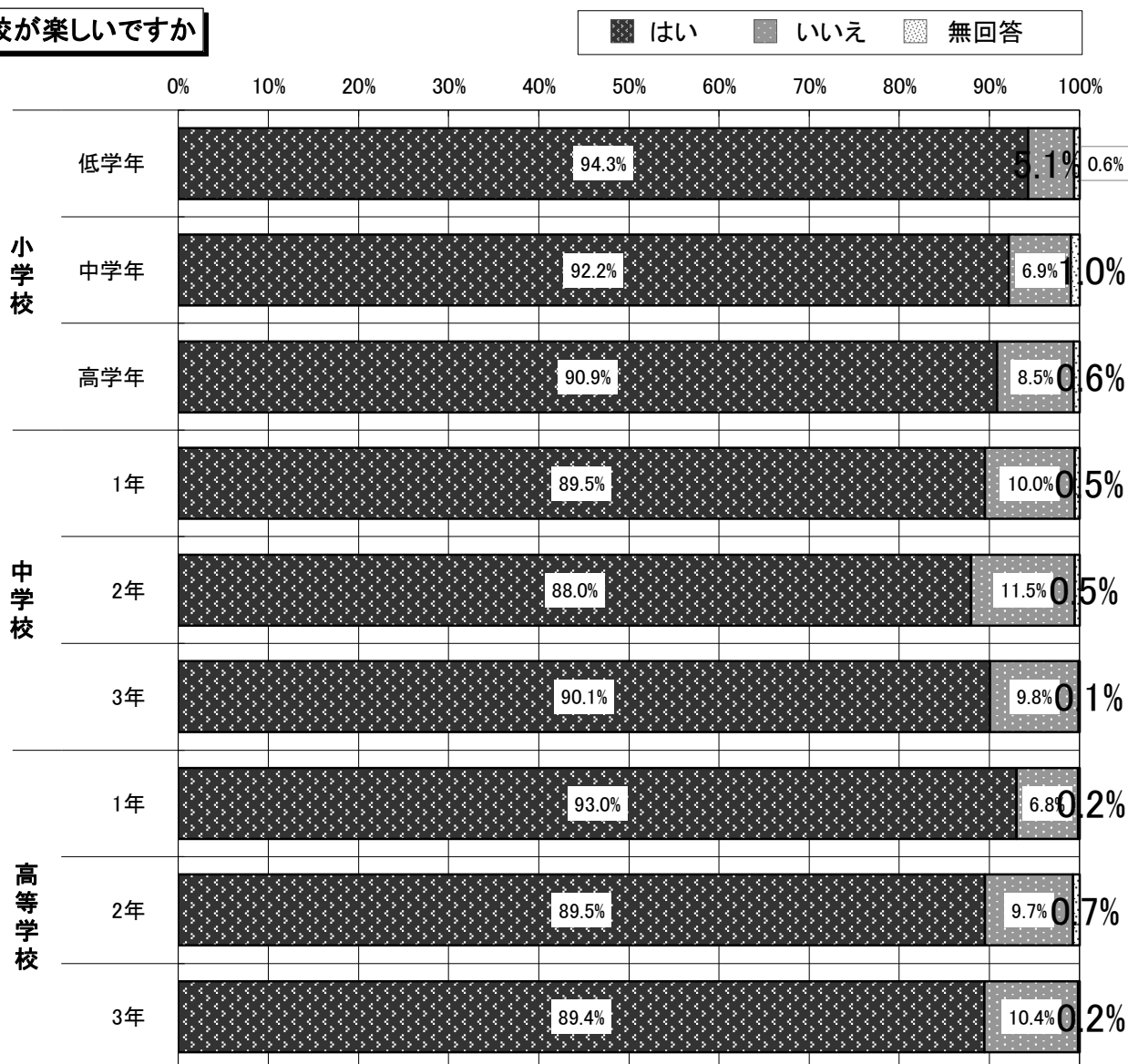


学校が楽しいですかという質問に対する児童生徒の学年別回答数

(人)

| | 小学校 | | | | | | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 | |
| はい | 13,582 | 13,584 | 13,376 | 13,253 | 13,235 | 13,529 | 12,342 | 11,887 | 12,064 | 1,982 | 1,883 | 2,020 | 122,737 |
| いいえ | 696 | 760 | 909 | 1,076 | 1,179 | 1,324 | 1,374 | 1,552 | 1,318 | 145 | 205 | 235 | 10,773 |
| 調査提出数 | 14,398 | 14,401 | 14,442 | 14,455 | 14,443 | 15,007 | 13,786 | 13,510 | 13,397 | 2,131 | 2,103 | 2,259 | 134,332 |
| 「いいえ」の割合 | 4.8% | 5.3% | 6.3% | 7.4% | 8.2% | 8.8% | 10.0% | 11.5% | 9.8% | 6.8% | 9.7% | 10.4% | 8.0% |

学校が楽しいですか



【考察】

- ・どの校種においても、約9割の児童生徒が「学校が楽しい」と回答している。
- ・小学校では、「学校が楽しい」と回答する割合が、学年が上がるごとに減少する。
- ・中学校では、「学校が楽しい」と回答する割合が、2年生において減少し、3年生で回復する。
- ・高等学校では、「学校が楽しい」と回答する割合が、2年生で急激に減少する。
- ・学年が上がるごとに、学校生活に充実感が得られるような働きかけに努めることが大切である。
- ・保護者と連携して児童生徒理解を進めることが大切である。

2 あなたは、今、何か悩んでいることはありますか。

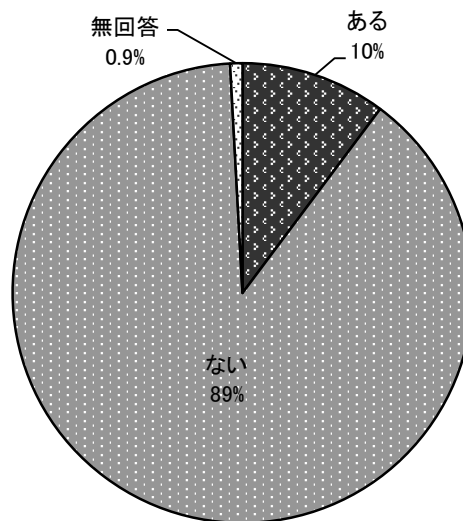
【設問2】 あなたは、今、何か悩んでいることはありますか。

ア ある イ ない

「ある」・「ない」の割合

校種別人数 (人)

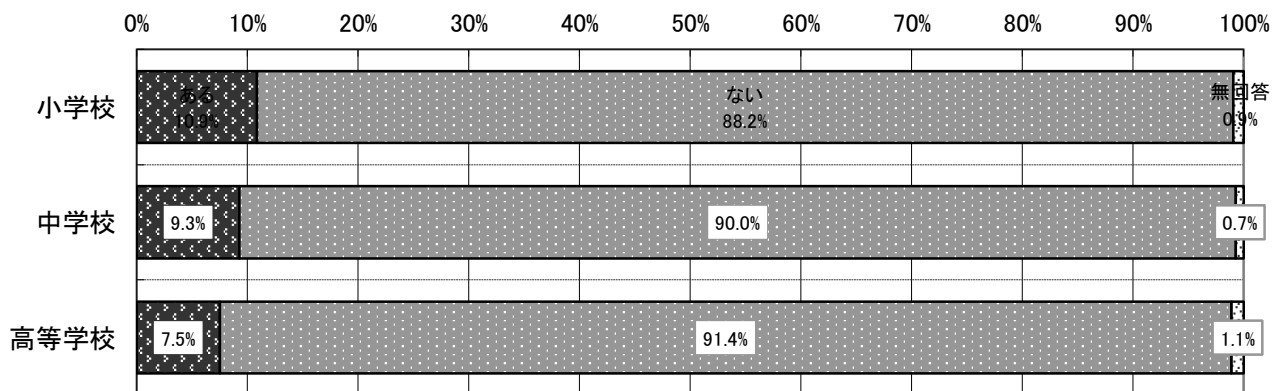
| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-------|--------|--------|-------|---------|
| ある | 9,466 | 3,778 | 487 | 13,731 |
| ない | 76,878 | 36,630 | 5,934 | 119,442 |
| 調査提出数 | 87,146 | 40,693 | 6,493 | 134,332 |



校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| ある | 10.9% | 9.3% | 7.5% | 10.2% |
| ない | 88.2% | 90.0% | 91.4% | 88.9% |

「ある」・「ない」の校種別割合



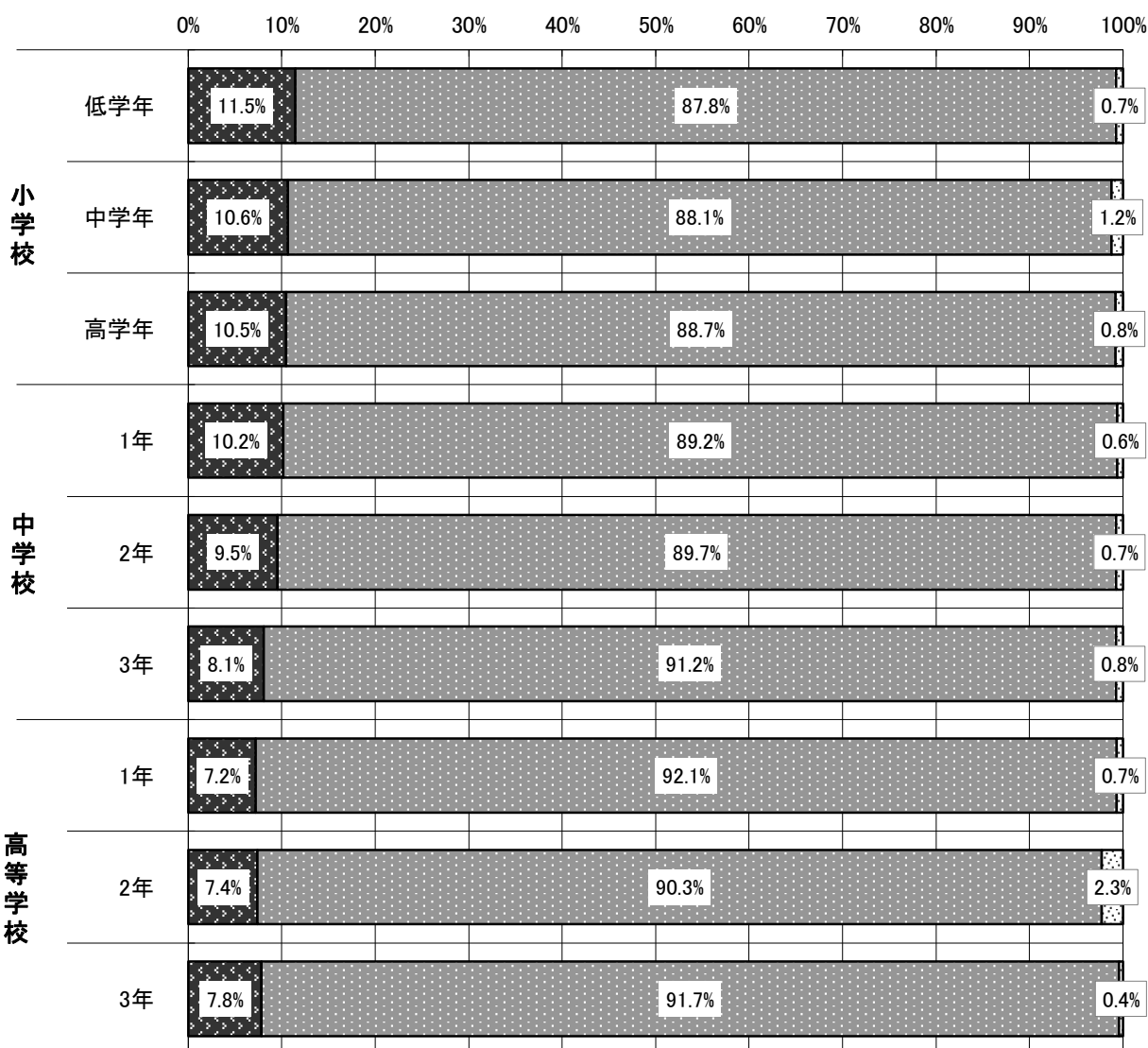
悩みごとの有無に対する児童生徒の学年別回答数

(人)

| | 小学校 | | | | | | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 | |
| ある | 1,697 | 1,608 | 1,521 | 1,555 | 1,540 | 1,545 | 1,405 | 1,290 | 1,083 | 154 | 156 | 177 | 13,731 |
| ない | 12,550 | 12,732 | 12,768 | 12,698 | 12,838 | 13,292 | 12,299 | 12,119 | 12,212 | 1,963 | 1,899 | 2,072 | 119,442 |
| 調査提出数 | 14,398 | 14,401 | 14,442 | 14,455 | 14,443 | 15,007 | 13,786 | 13,510 | 13,397 | 2,131 | 2,103 | 2,259 | 134,332 |
| 「ある」の割合 | 11.8% | 11.2% | 10.5% | 10.8% | 10.7% | 10.3% | 10.2% | 9.5% | 8.1% | 7.2% | 7.4% | 7.8% | 10.2% |

あなたは、今、何か悩んでいることはありますか

■ ある ■ ない ■ 無回答



【考察】

- ・小学校の低学年から、高等学校の1年生までは、「悩みがある」が減少していく。
- ・その後、高等学校2年生から「悩みがある」が増加していく。
- ・悩むことは自然なことであり、思春期は悩みが多い年代であること、また、悩むことで成長できることがあるなど、悩むことの肯定的な意味について、スクールカウンセラーと連携しながら教育を図っていきたい。
- ・悩みはあることが自然なことではあるが、悩みを相談できる体制づくりが大切である。
- ・教育相談の充実と相談窓口のより一層の周知に努めたい。

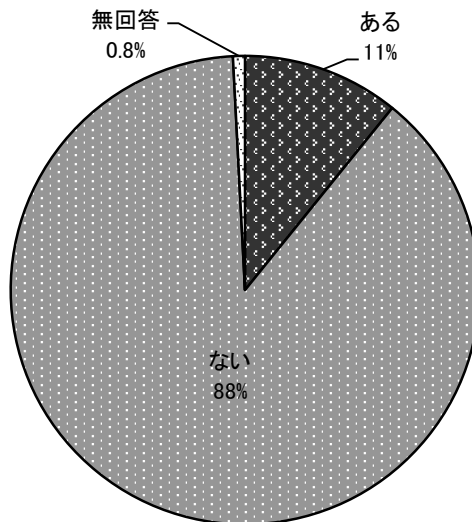
3 あなたは、今の学年になってから、いじめられたことがありますか。

【設問3】 あなたは、今の学年になってから、いじめられたことがありますか。
ア ある イ ない

「ある」・「ない」の割合

校種別人数 (人)

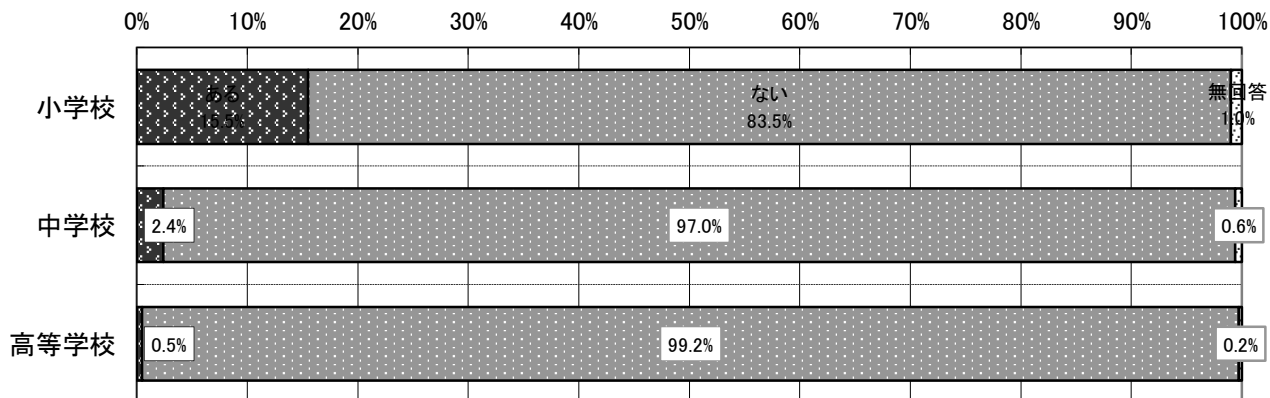
| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-------|--------|--------|-------|---------|
| ある | 13,531 | 974 | 33 | 14,538 |
| ない | 72,772 | 39,473 | 6,444 | 118,689 |
| 調査提出数 | 87,146 | 40,693 | 6,493 | 134,332 |



校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| ある | 15.5% | 2.4% | 0.5% | 10.8% |
| ない | 83.5% | 97.0% | 99.2% | 88.4% |

「ある」・「ない」の校種別割合



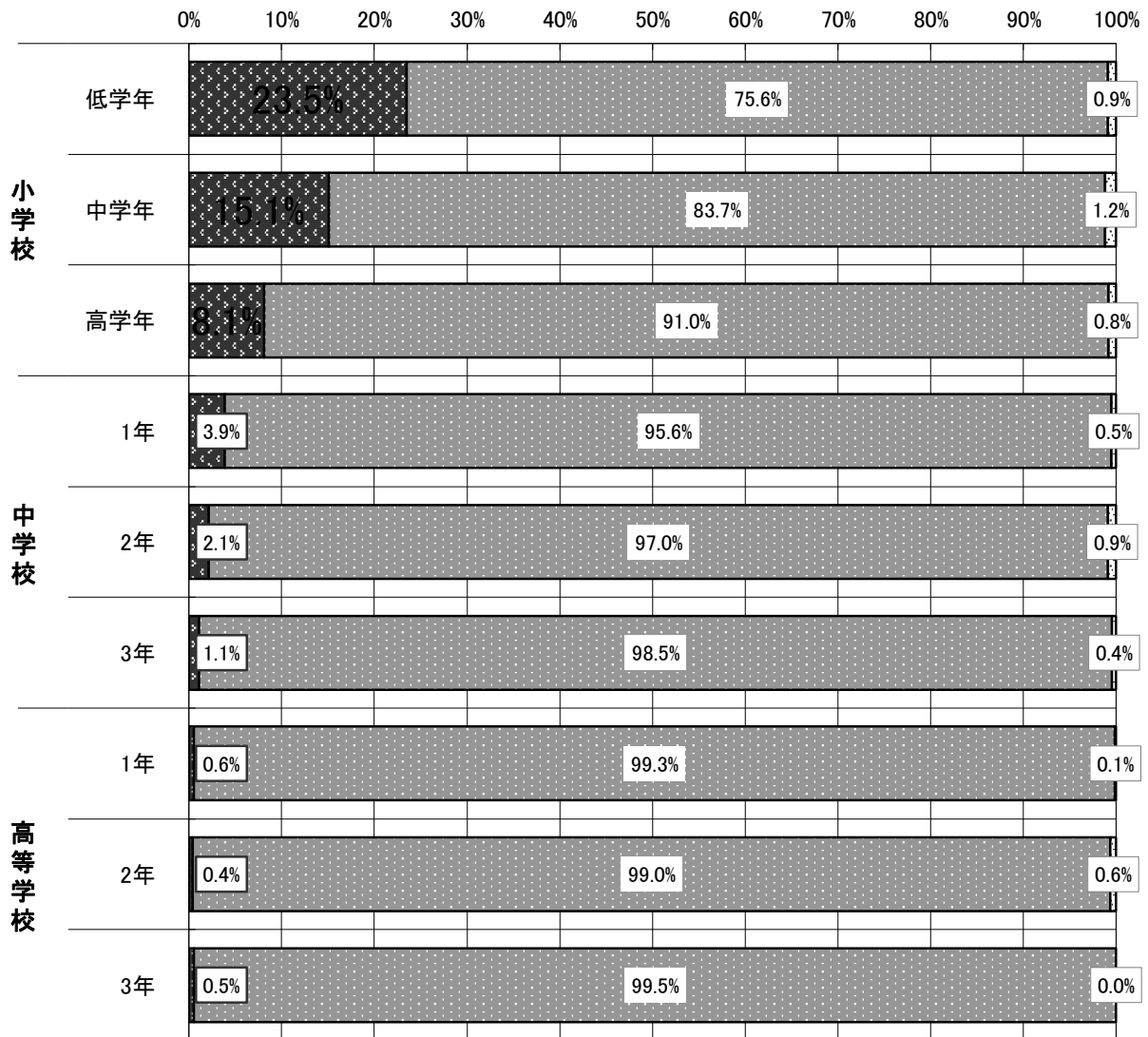
今の学年になってからのいじめの有無に対する児童生徒の学年別回答数

(人)

| | 小学校 | | | | | | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 | |
| ある | 3,834 | 2,938 | 2,416 | 1,943 | 1,398 | 1,002 | 538 | 290 | 146 | 12 | 9 | 12 | 14,538 |
| ない | 10,410 | 11,355 | 11,850 | 12,348 | 12,980 | 13,829 | 13,175 | 13,105 | 13,193 | 2,116 | 2,081 | 2,247 | 118,689 |
| 調査提出数 | 14,398 | 14,401 | 14,442 | 14,455 | 14,443 | 15,007 | 13,786 | 13,510 | 13,397 | 2,131 | 2,103 | 2,259 | 134,332 |
| 「ある」の割合 | 26.6% | 20.4% | 16.7% | 13.4% | 9.7% | 6.7% | 3.9% | 2.1% | 1.1% | 0.6% | 0.4% | 0.5% | 10.8% |

今の学年になってから、いじめられたことがあるか

■ ある ■ ない ■ 無回答



【考察】

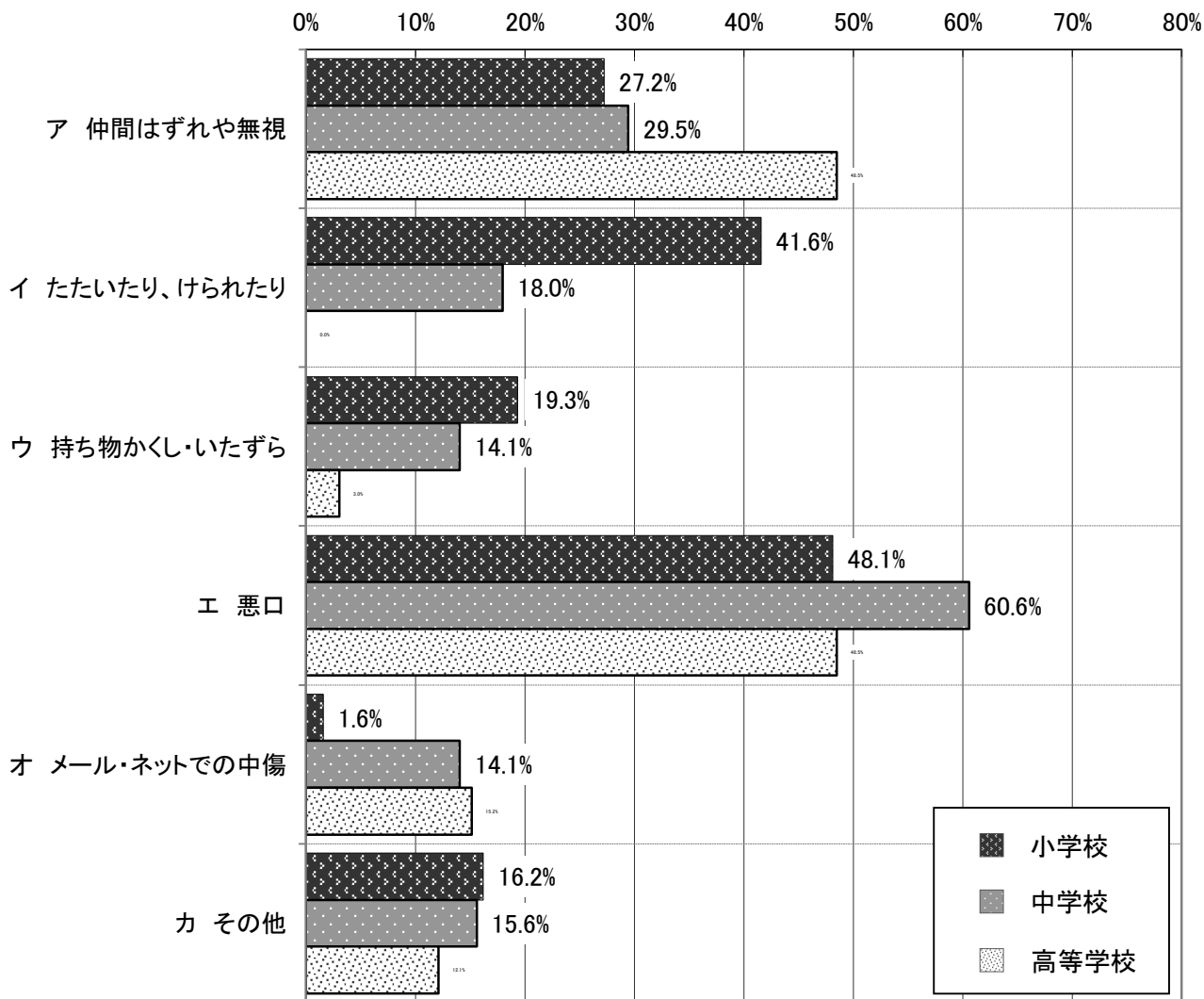
- ・「いじめられたことがある」と回答する児童生徒は、発達の段階が上がるほど少なくなる。
- ・これは、いじめは絶対に許されないという認識について、発達の段階が上がるほど浸透してきていると肯定的に捉えることもできるが、発達の段階が上がるといじめにあっても、それを認めて「はい」と答えない場合もあることも考えられる。
- ・悩みを打ち明けられる体制やSOSの発信についての教育の推進が必要である。
- ・また、いじめに対する概念や解釈が発達の段階によって変わるということも考えられる。
- ・いじめは誰にでも起こりうるという認識から、「いじめられたことがある」と回答していない児童生徒も含め、日常生活の丁寧な見守りと状況把握が大切である。
- ・認知したいじめについては、解消に向けた取組が大切である。

4 今の学年になってから、いじめられたことが“ある”と答えた人に聞きます。どんないじめですか。

【設問4】 設問3で「ア ある」と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。
(複数回答)

- ア 仲間はずれや無視をされる
- イ たたかれたり、けられたりする
- ウ 持ち物をかくされたり、いたずらされたりする
- エ 悪口を言われる
- オ 傷つく内容のメールが送られてきたり、インターネットに書きこまれたりする
- カ その他

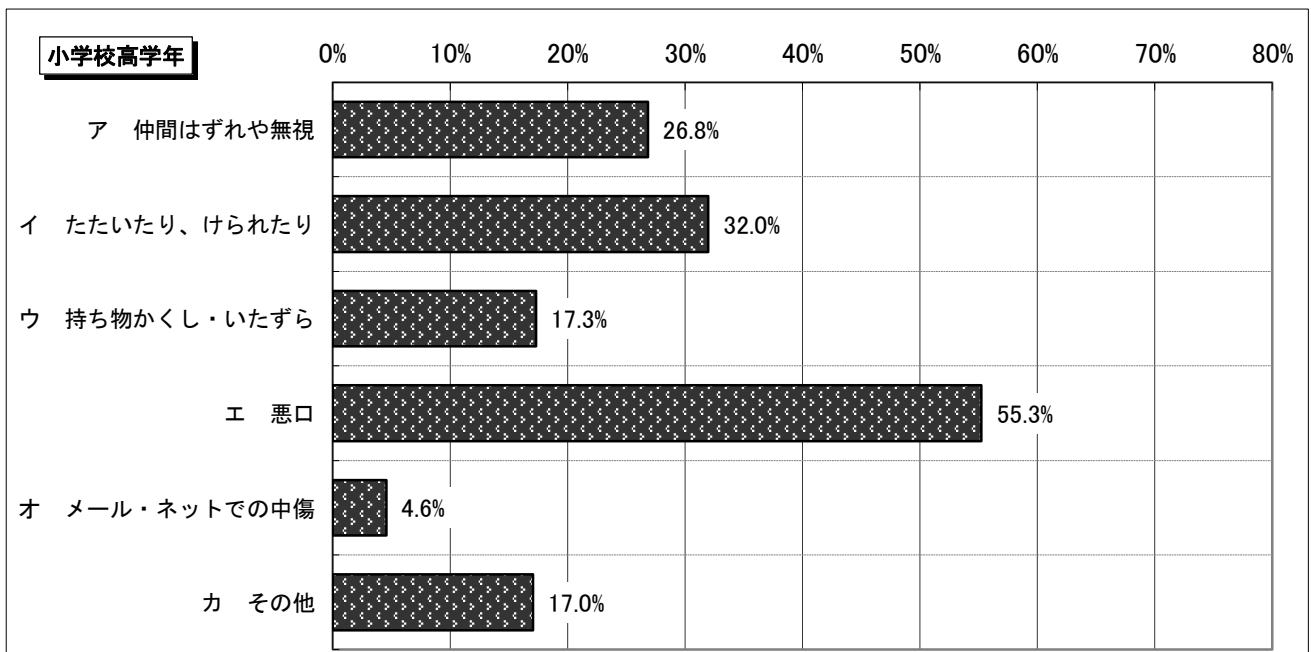
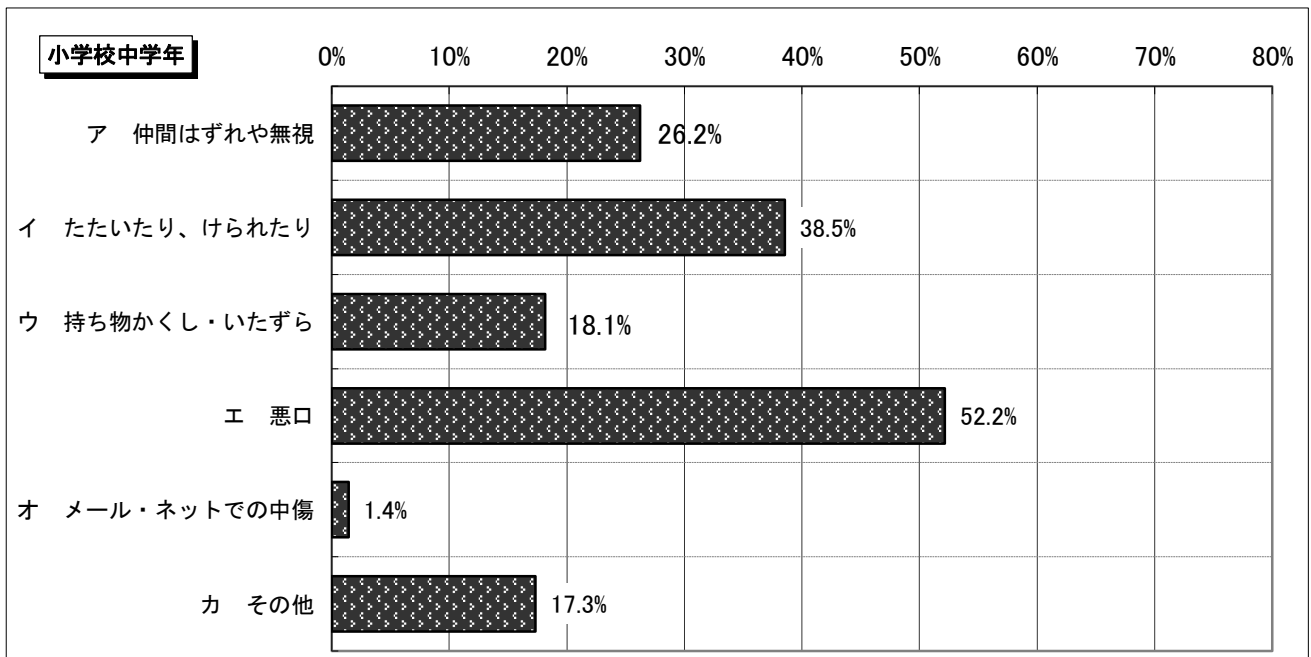
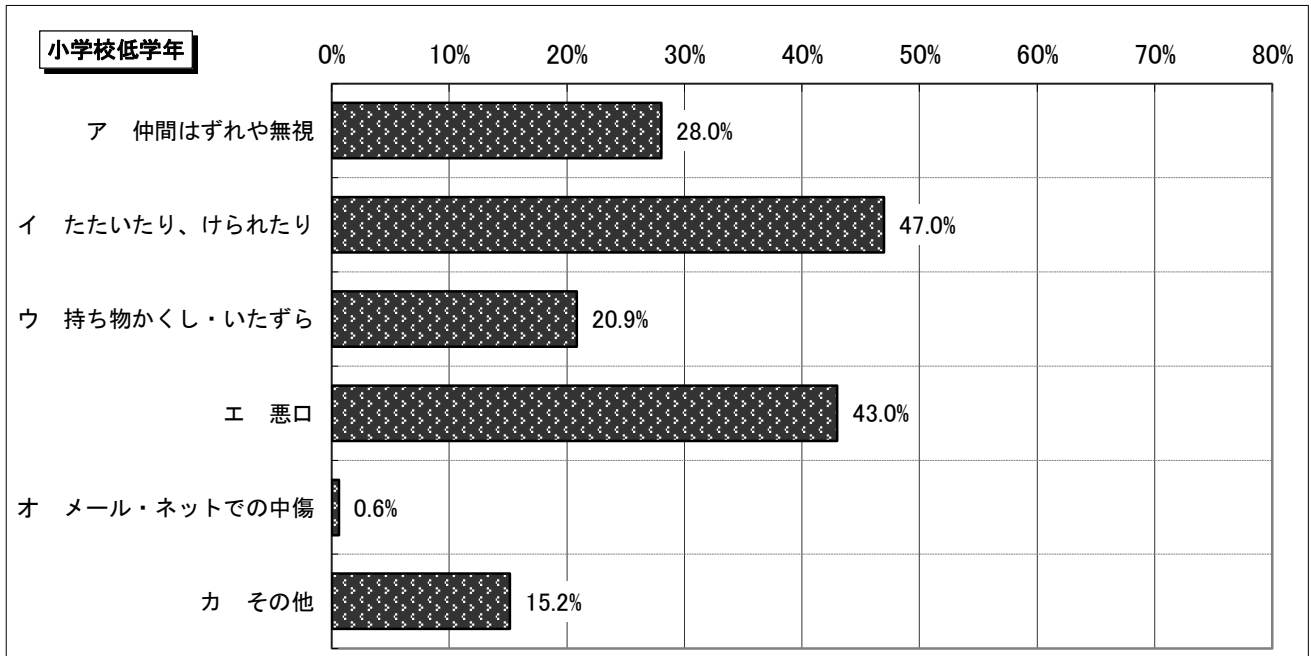
いじめの内容



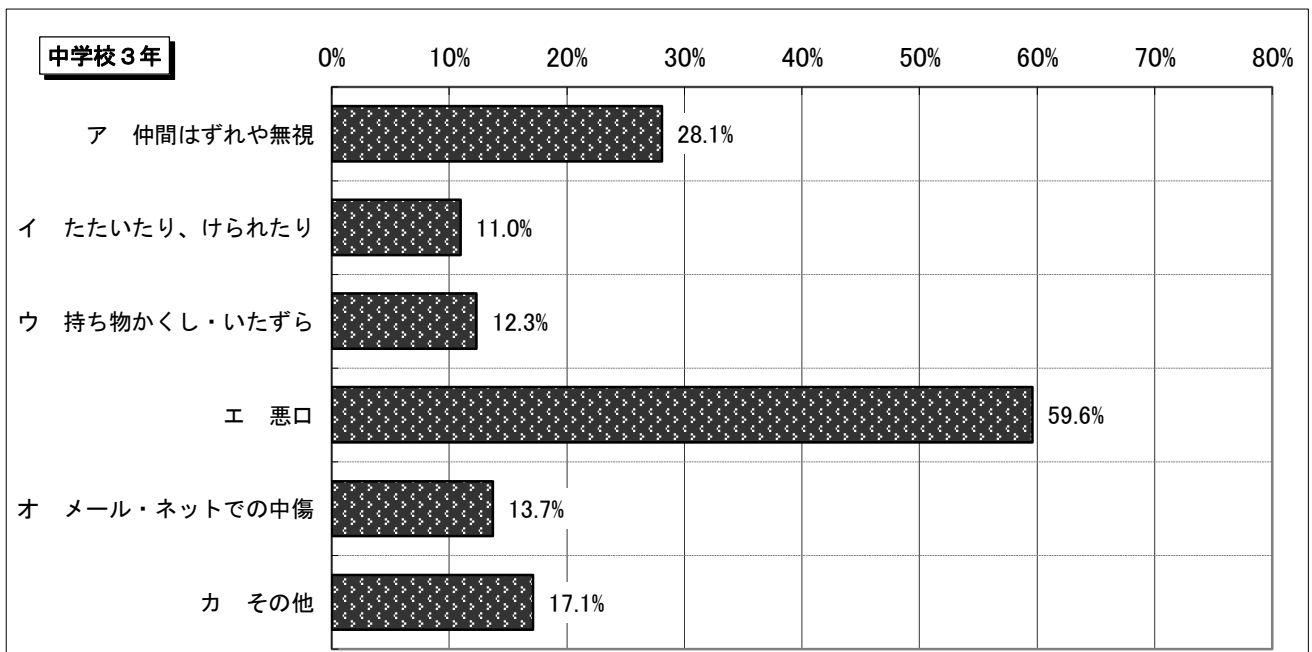
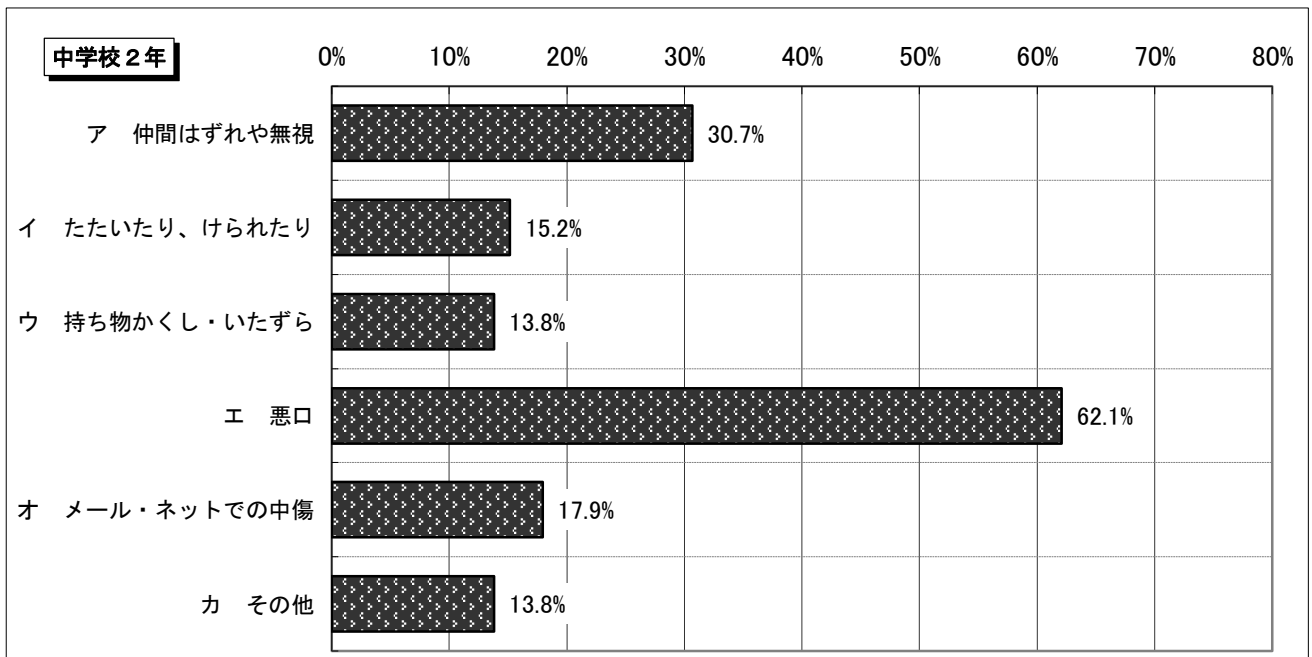
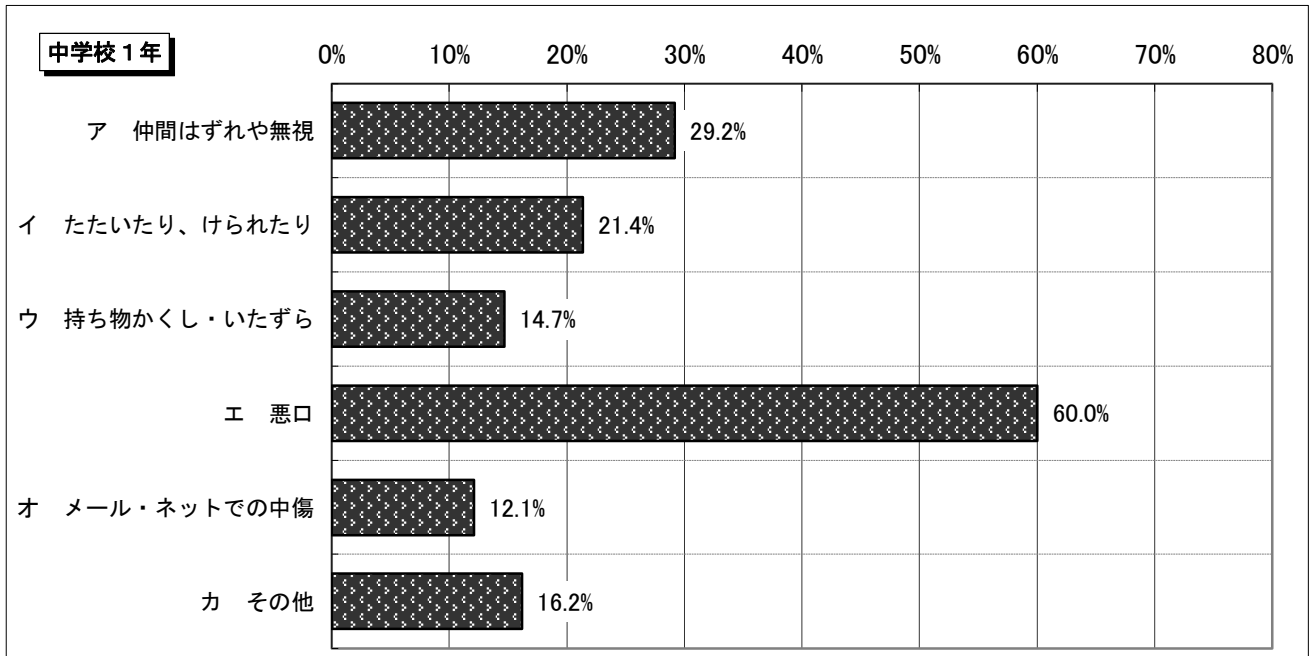
【考察】

- ・小学校では、「悪口」が約半数である。
- ・中学校では、「悪口」が6割以上を占めている。
- ・高等学校では、「悪口」に並んで「仲間はずれや無視」が多い。
- ・「仲間はずれや無視」と「メール・ネットでの中傷」は、校種が上がるごとに増加する。
- ・「たたいたり、けられたり」と「持ち物かくし・いたずら」は、校種が上がるごとに減少する。
- ・「メール・ネットでの中傷」は、昨年度より減少しており、各学校での情報モラル教育の成果が一定程度現れている。

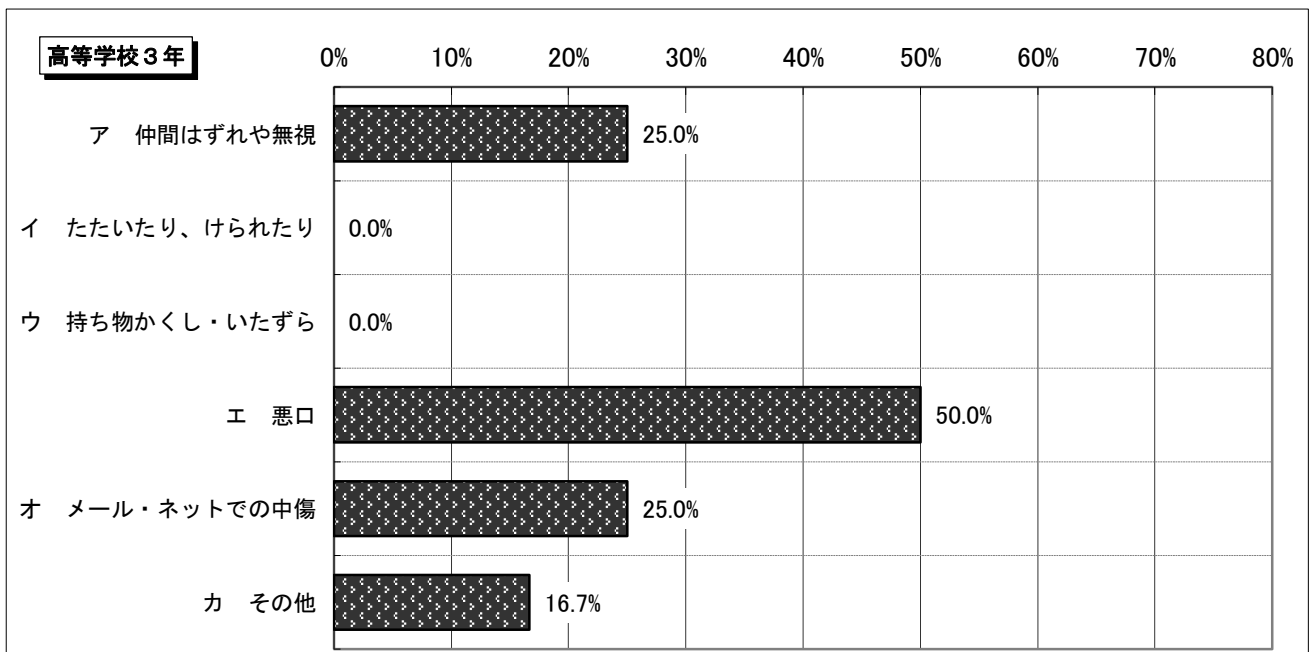
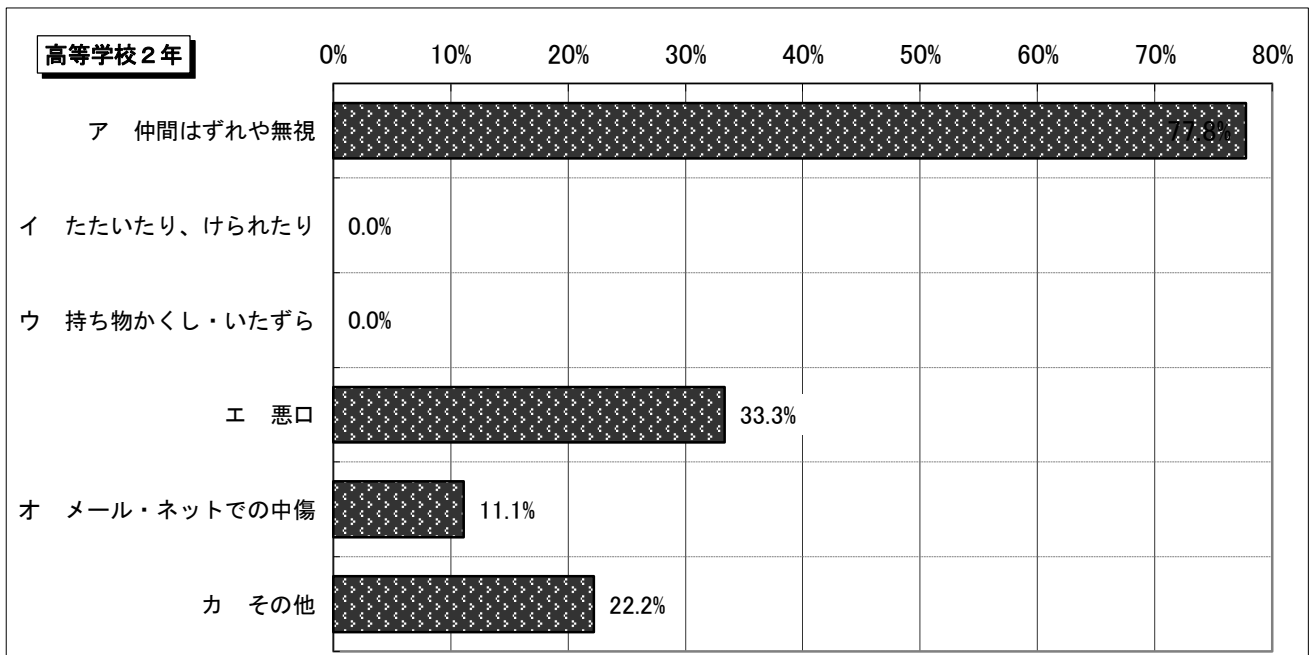
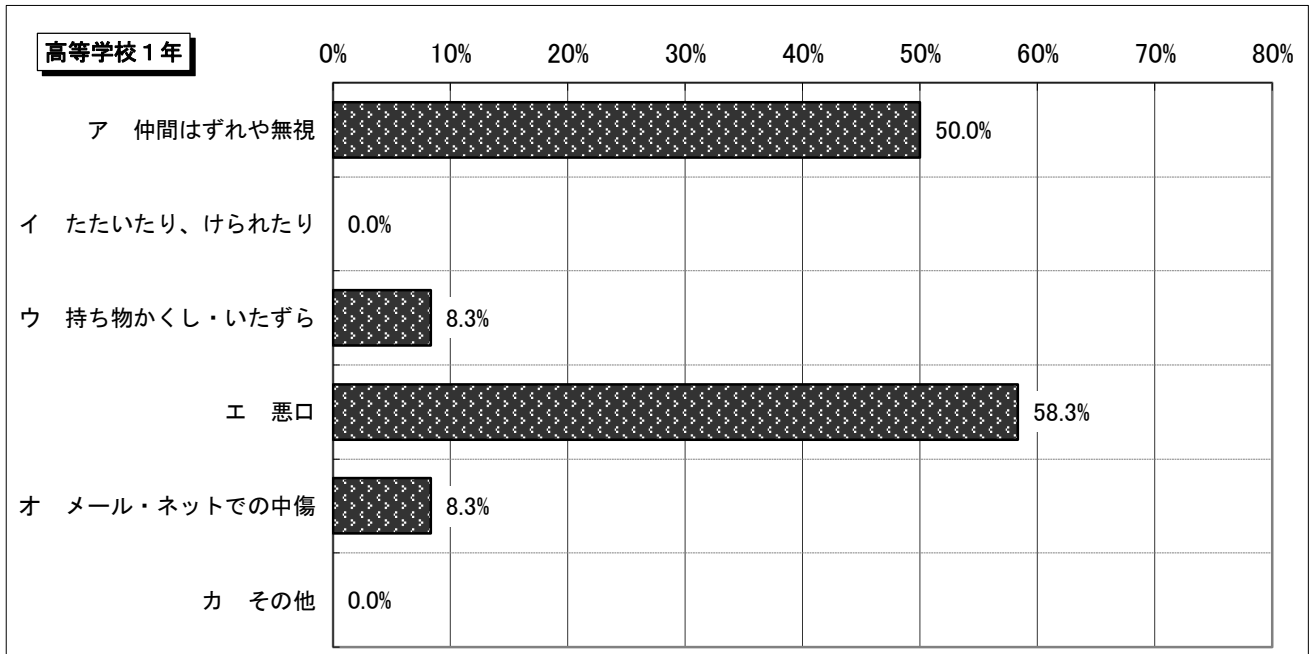
●いじめの内容＜小学校低・中・高学年別＞



●いじめの内容<中学校学年別>



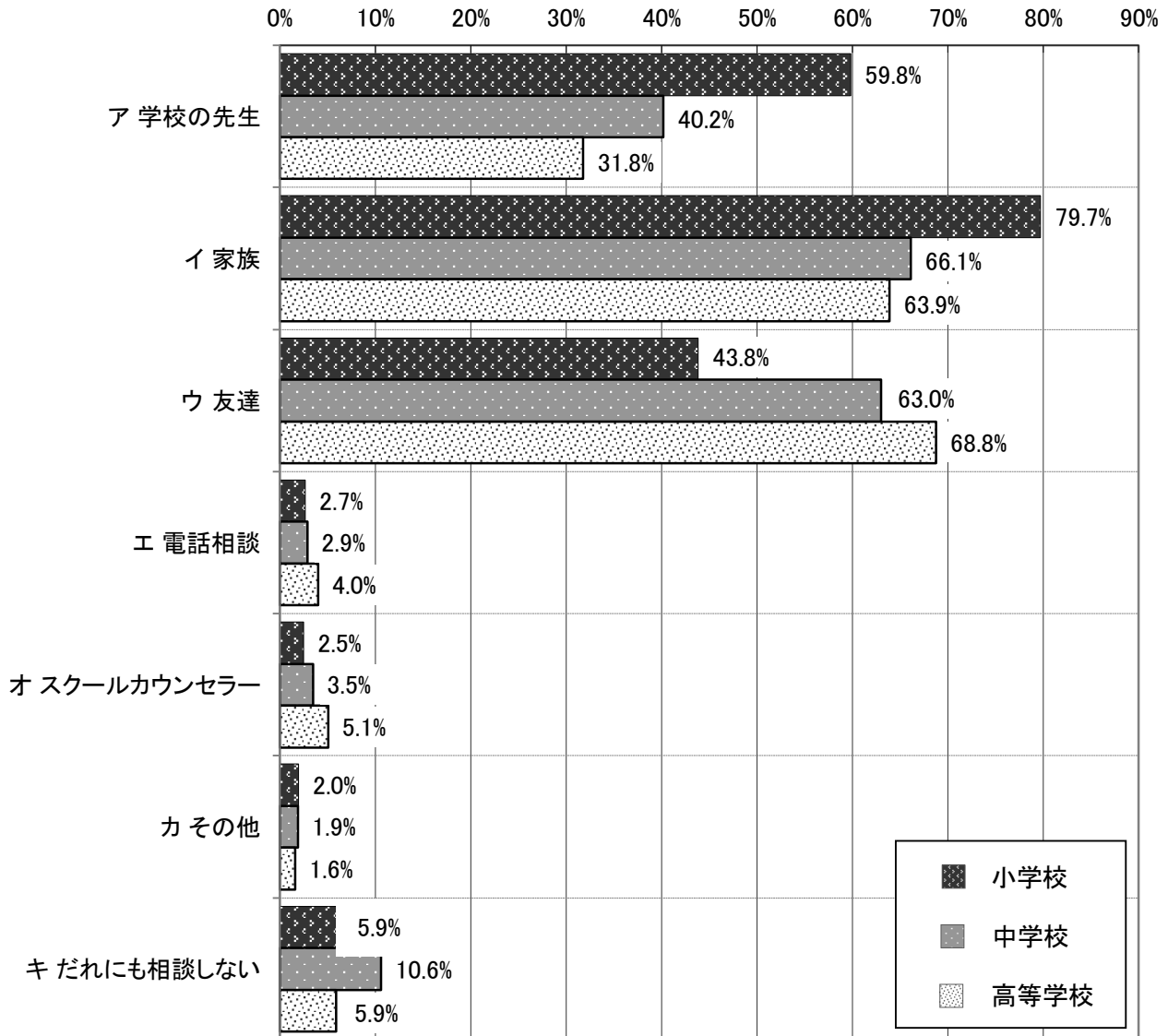
●いじめの内容<高等学校学年別>



5 あなたは、自分がいじめられたら、誰に相談しますか。

【設問5】 あなたは、自分がいじめられたら、誰に相談しますか。（複数回答）
 ア 学校の先生 イ 家族 ウ 友達
 エ 電話相談 オ スクールカウンセラー カ その他
 キ だれにも相談しない

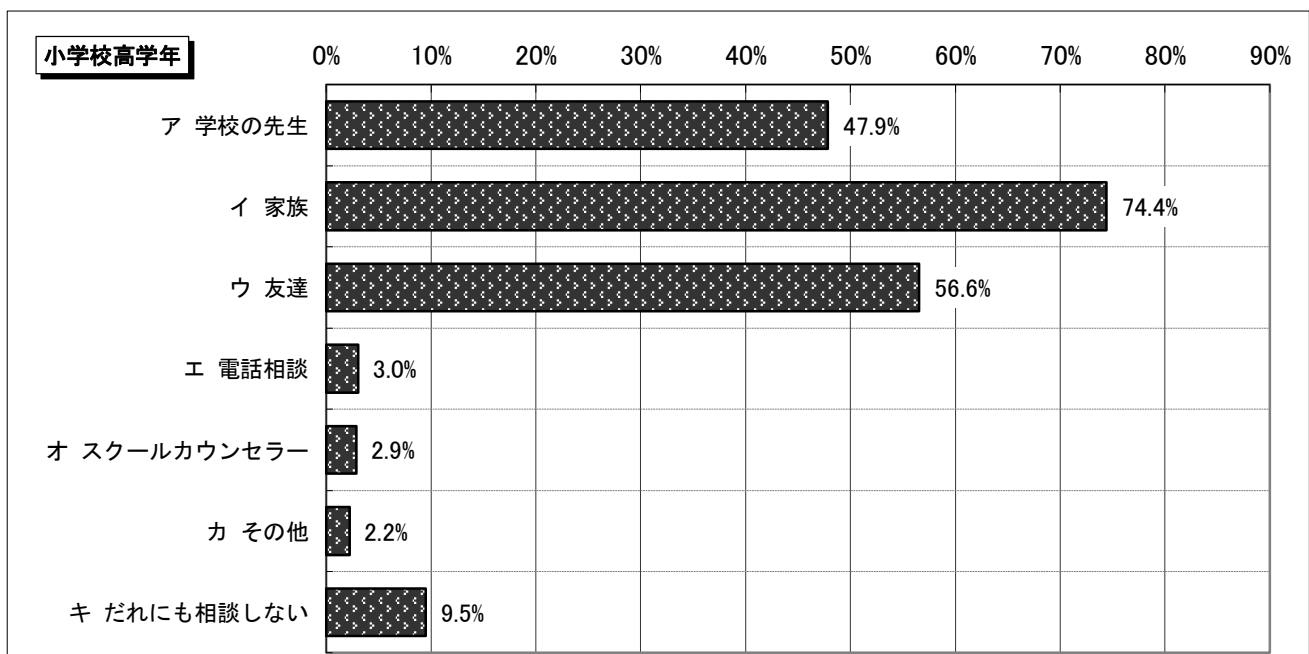
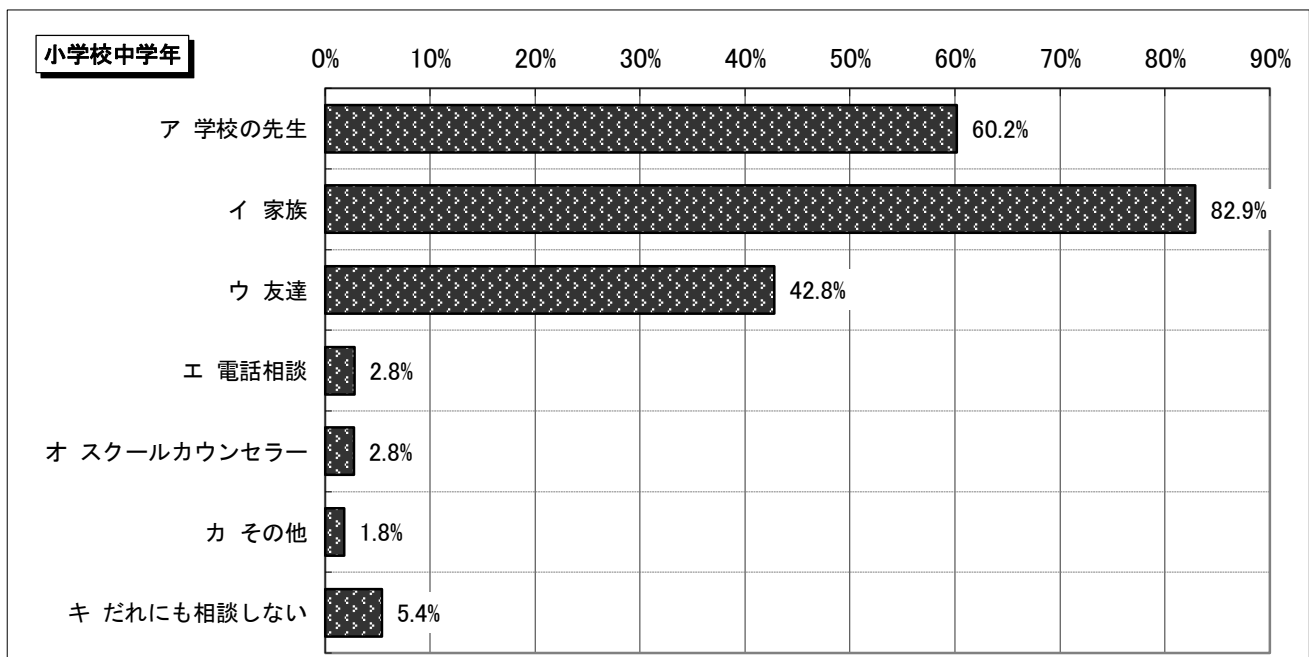
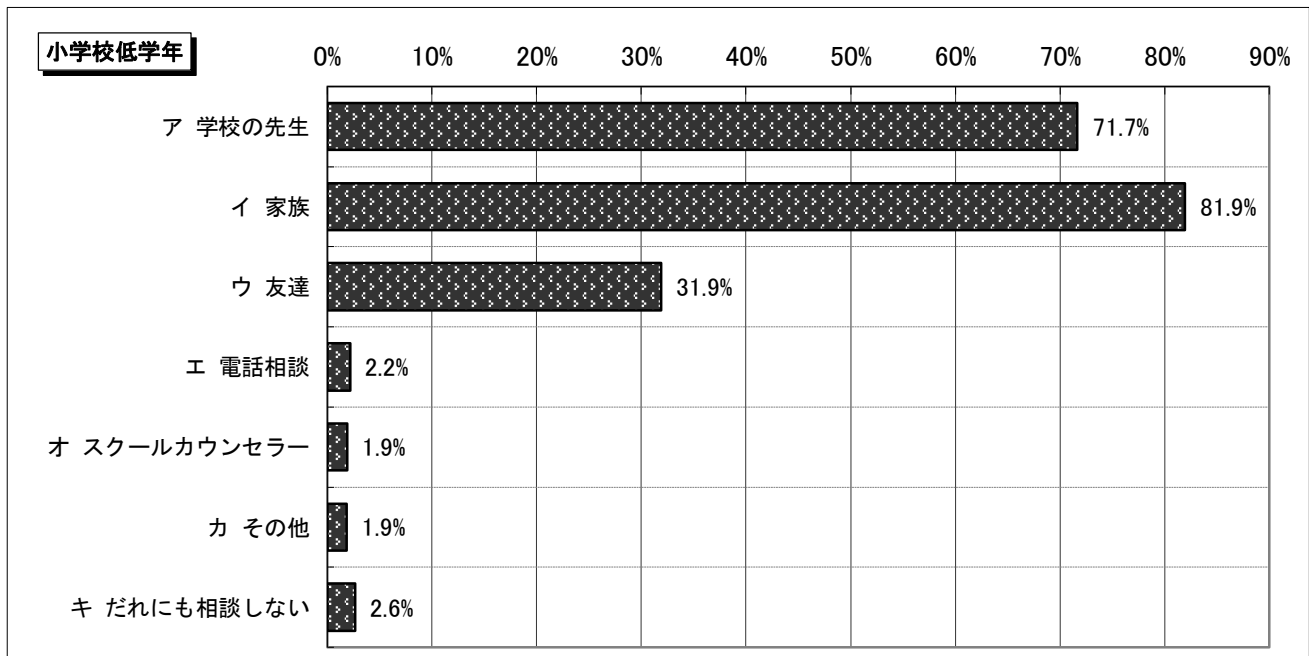
相談する相手



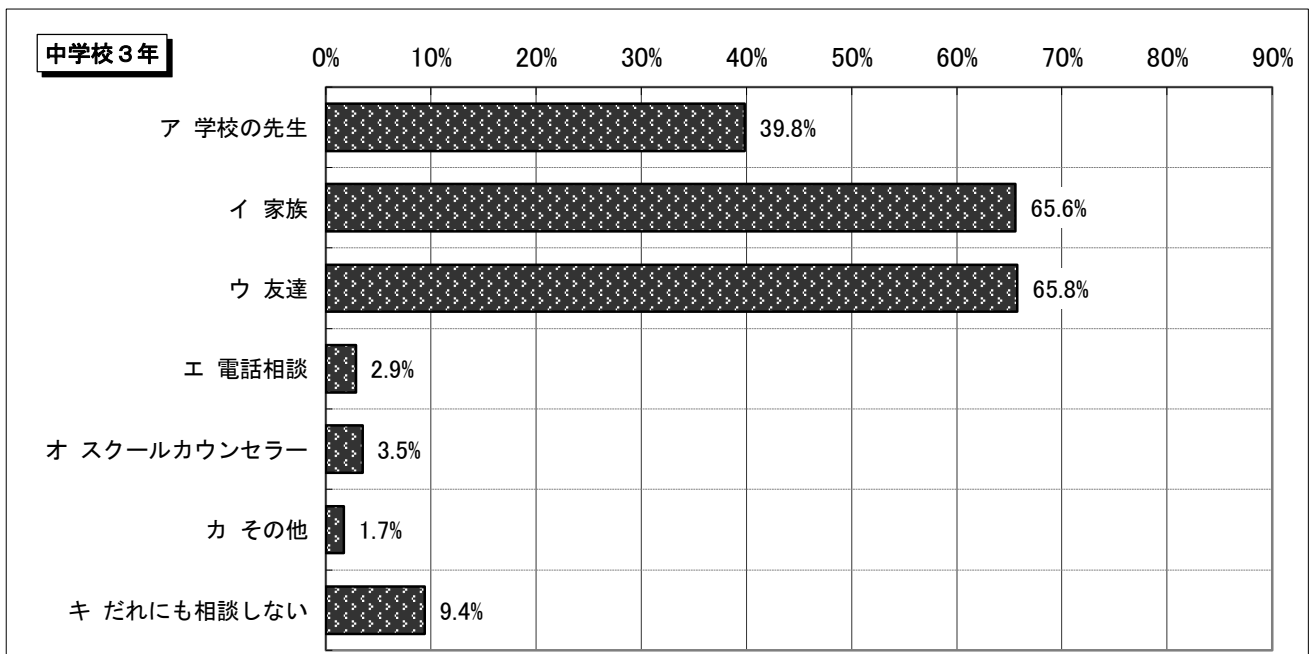
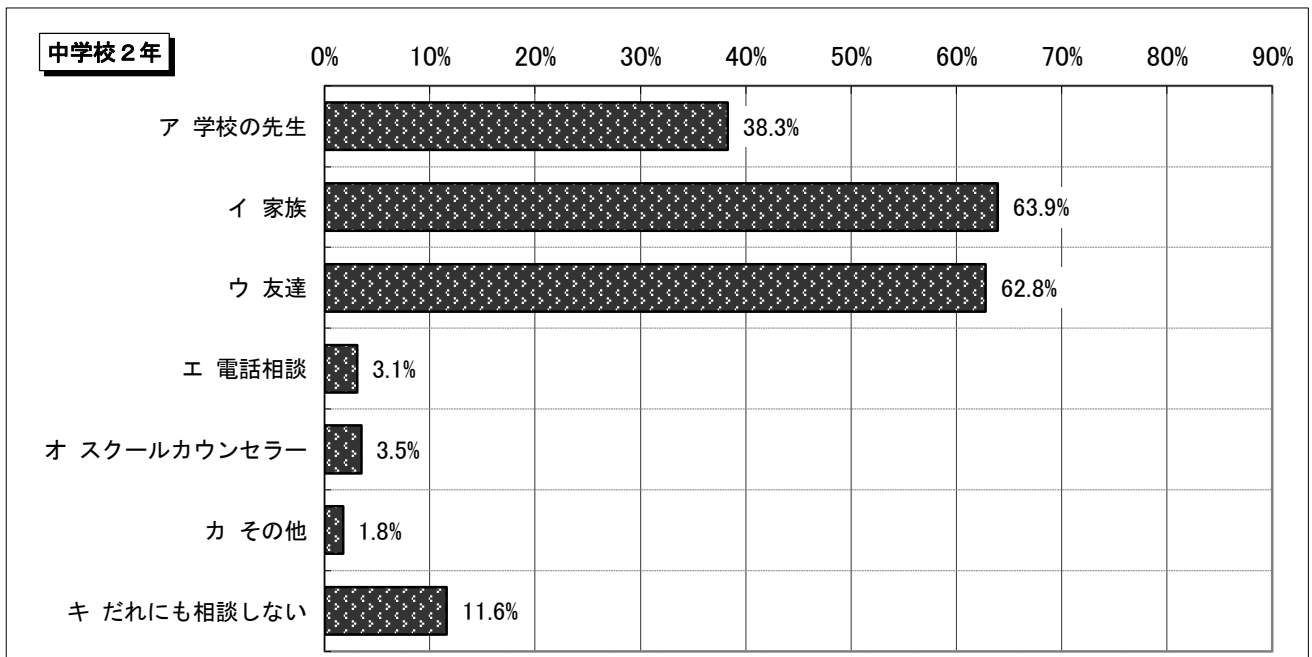
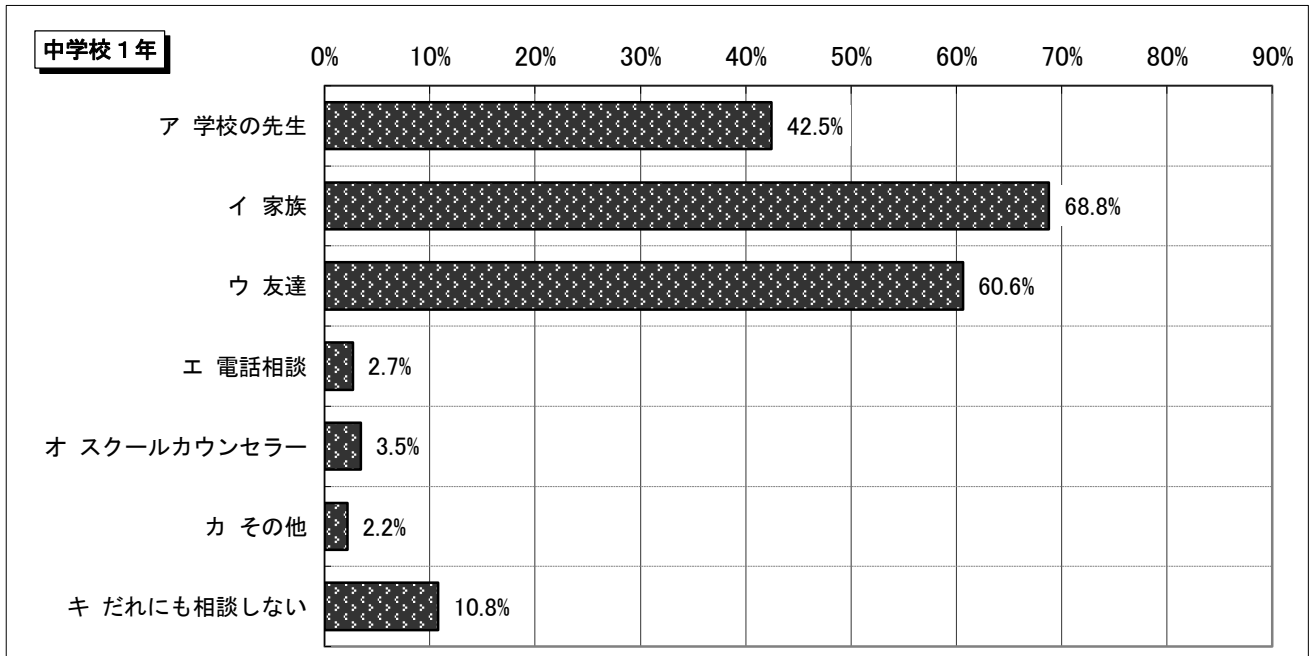
【考察】

- ・「だれにも相談しない」は、昨年度より減少している（詳細な考察は別資料）
- ・「学校の先生」と「家族」への相談は、校種が上がるごとに減少し、「友達」への相談が増加していく。
- ・高等学校においては、「友達」への相談が最多となる。
- ・「友達」への相談が増加していくため、相談を受けた場合の対応についての教育も大切である。
- ・ゲートキーパーやピア・サポートなどの心理教育を行っていくことが求められる。

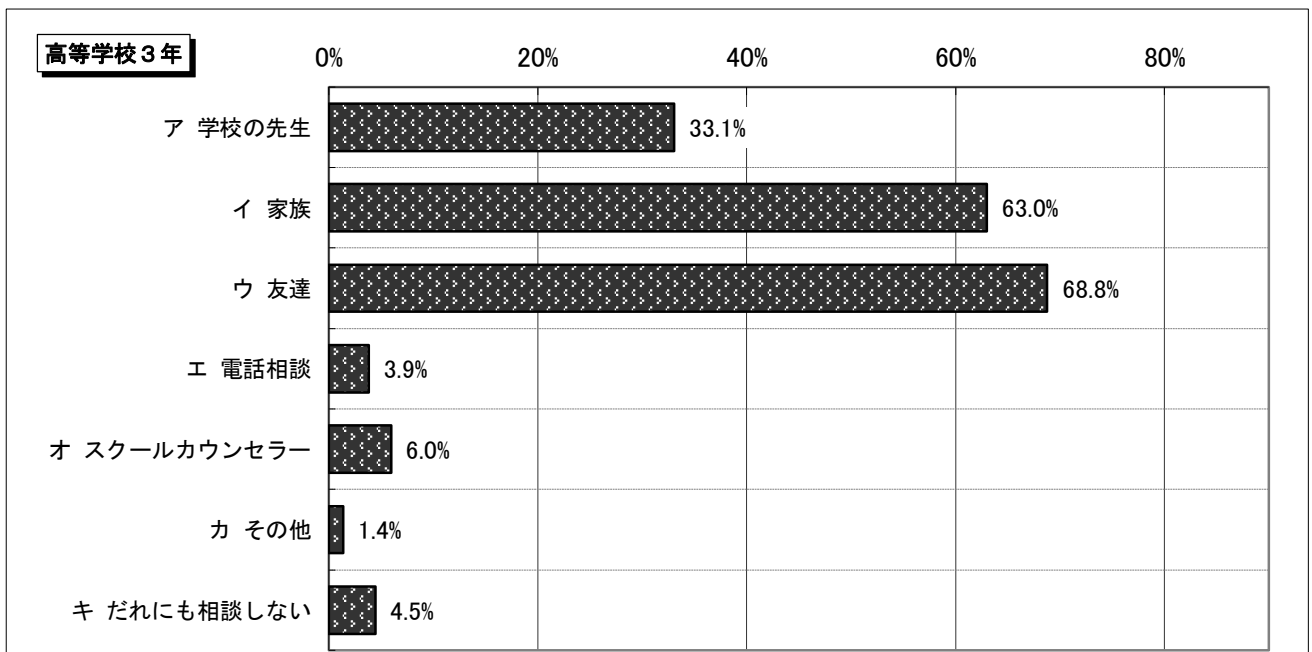
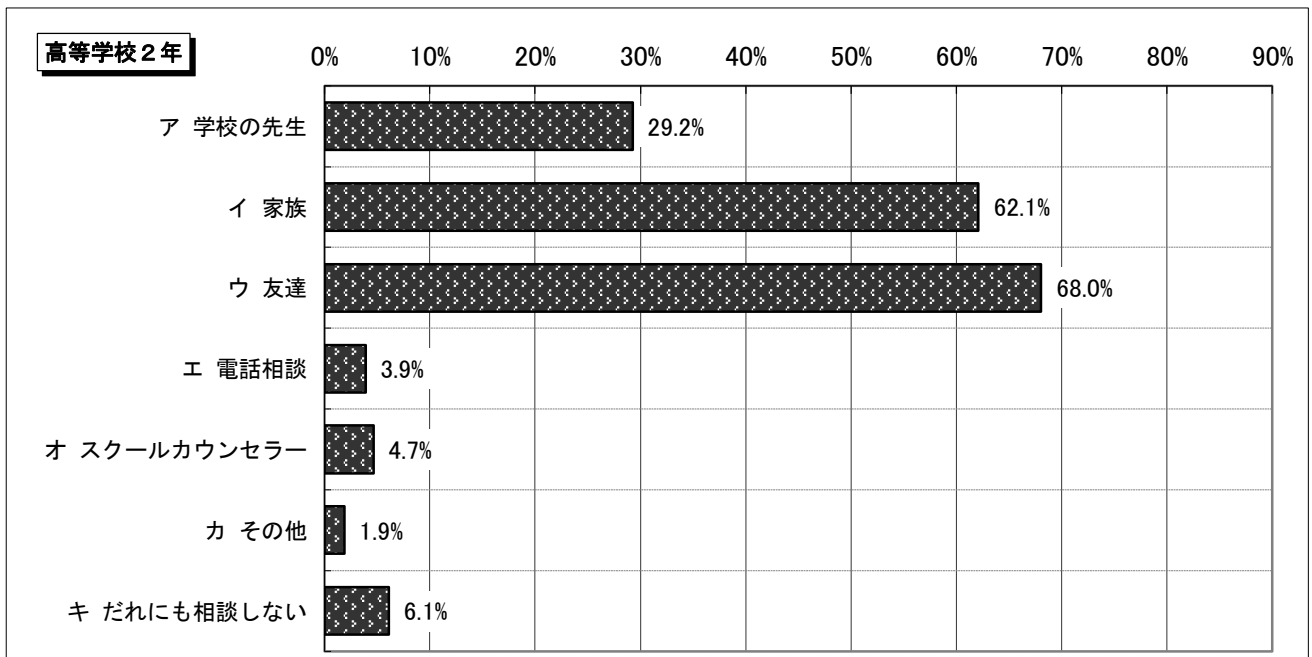
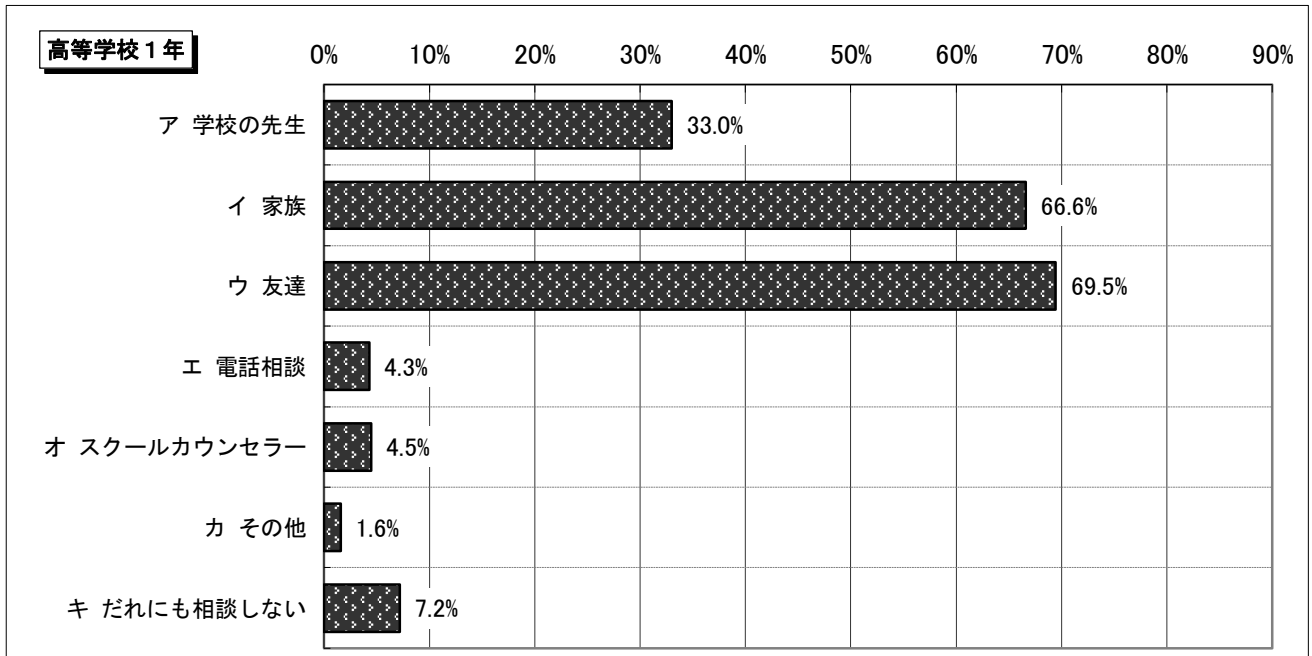
●相談する相手＜小学校低・中・高学年別＞



●相談する相手＜中学校学年別＞



●相談する相手<高等学校学年別>



6 今の学年になってから、いじめられたことが“ある”と答えた人に聞きます。
今もいじめられていますか。

【設問6】 設問3で「ア ある」と答えた人に聞きます。今もいじめられていますか。
ア いじめられている イ いじめられていない

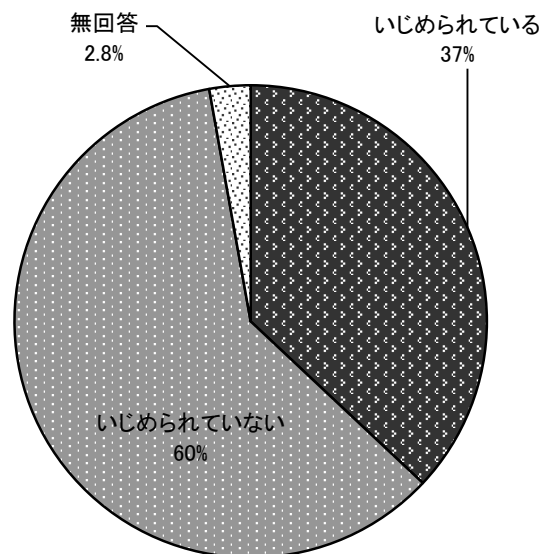
校種別人数 (人)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-----------|--------|-----|------|--------|
| いじめられている | 5,065 | 304 | 10 | 5,379 |
| いじめられていない | 8,105 | 623 | 22 | 8,750 |
| 設問3アの回答数 | 13,531 | 974 | 33 | 14,538 |

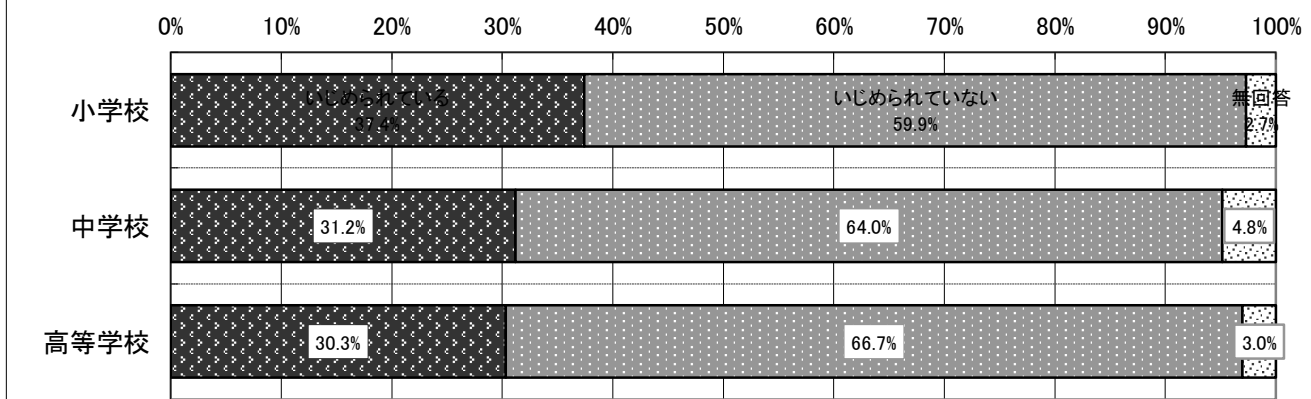
校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| いじめられている | 37.4% | 31.2% | 30.3% | 37.0% |
| いじめられていない | 59.9% | 64.0% | 66.7% | 60.2% |

「いじめられている」・「いじめられていない」の割合



「いじめられている」・「いじめられていない」の校種別割合



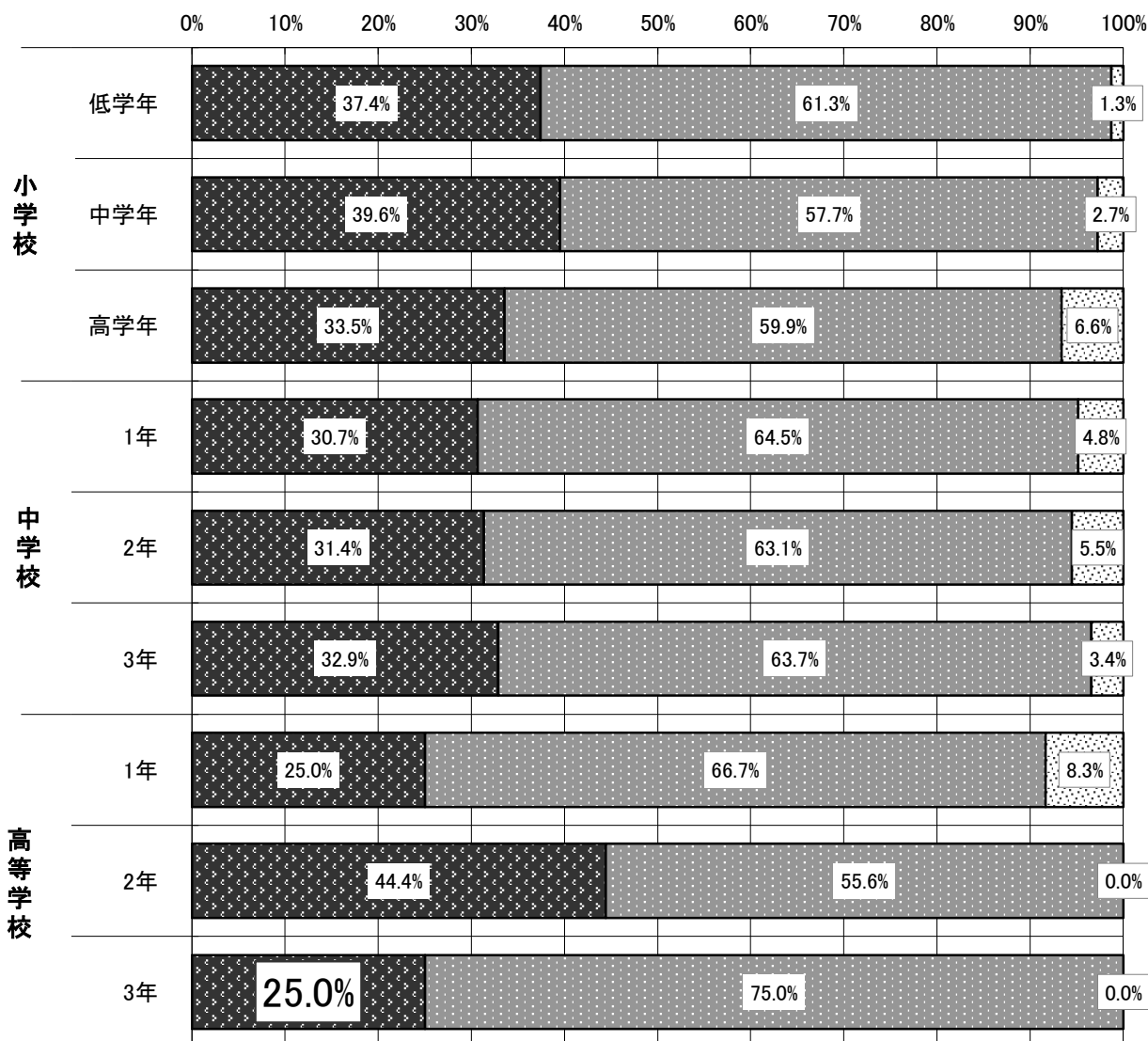
今現在のいじめに対する児童生徒の学年別回答数

(人)

| | 小学校 | | | | | | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 | |
| いじめられている | 1,339 | 1,197 | 990 | 734 | 475 | 330 | 165 | 91 | 48 | 3 | 4 | 3 | 5,379 |
| いじめられていない | 2,442 | 1,709 | 1,399 | 1,118 | 820 | 617 | 347 | 183 | 93 | 8 | 5 | 9 | 8,750 |
| 設問3アの回答数 | 3,834 | 2,938 | 2,416 | 1,943 | 1,398 | 1,002 | 538 | 290 | 146 | 12 | 9 | 12 | 14,538 |
| 「いじめられている」の割合 | 34.9% | 40.7% | 41.0% | 37.8% | 34.0% | 32.9% | 30.7% | 31.4% | 32.9% | 25.0% | 44.4% | 25.0% | 37.0% |

今もいじめられているか

■ いじめられてる ■ いじめられていない ■ 無回答



【考察】

- ・「今もいじめられている」と回答した児童生徒がどの校種においても多くいる。
- ・いじめられている児童生徒への継続した対応と見守り、解消に向けた取組が大切である。
- ・無回答の背景には、「被害を訴えることにより事態が悪化するのではないか」、「一定期間、行為としてのいじめの事実はないが再発するかもしれない」など、子どもが不安を抱えていることが想定され、いじめられた子どもが相談しやすい環境を構築していくことが求められる。
- ・いじめは、複雑化、長期化することもあるという視点をもった丁寧な取組が必要である。

7 あなたは、今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか。

【設問7】 あなたは、今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことがありますか。
ア ある イ ない

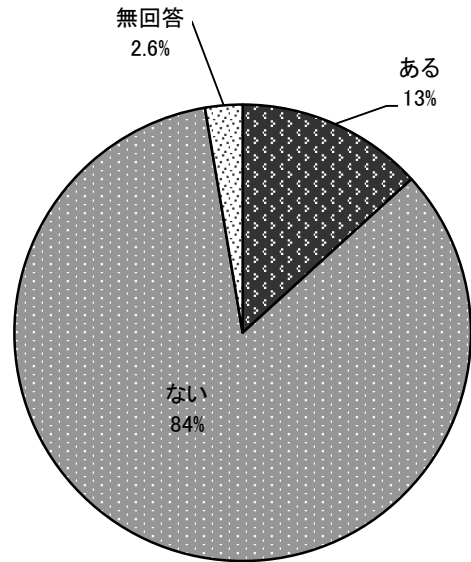
校種別人数 (人)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-------|--------|--------|-------|---------|
| ある | 15,983 | 1,759 | 51 | 17,793 |
| ない | 68,488 | 38,107 | 6,393 | 112,988 |
| 調査提出数 | 87,146 | 40,693 | 6,493 | 134,332 |

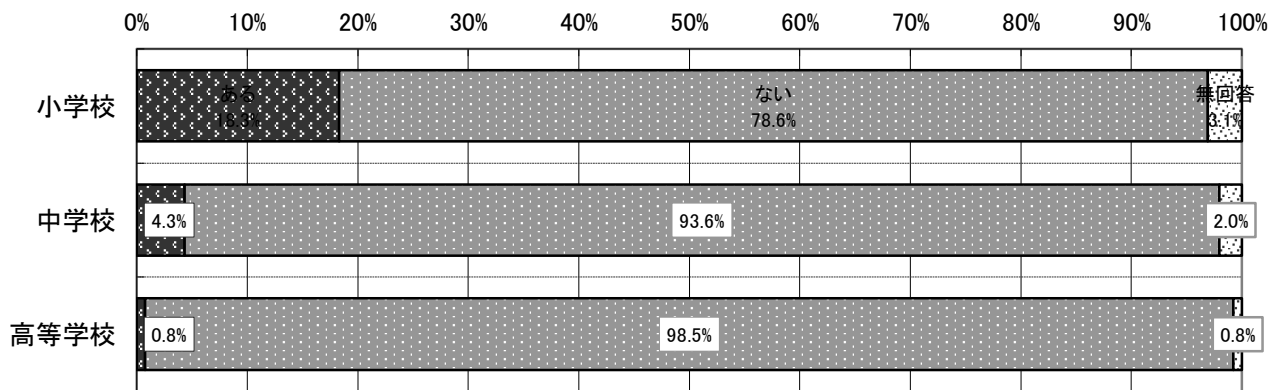
校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|----|-------|-------|-------|-------|
| ある | 18.3% | 4.3% | 0.8% | 13.2% |
| ない | 78.6% | 93.6% | 98.5% | 84.1% |

「ある」「ない」の割合



「ある」「ない」の校種別割合



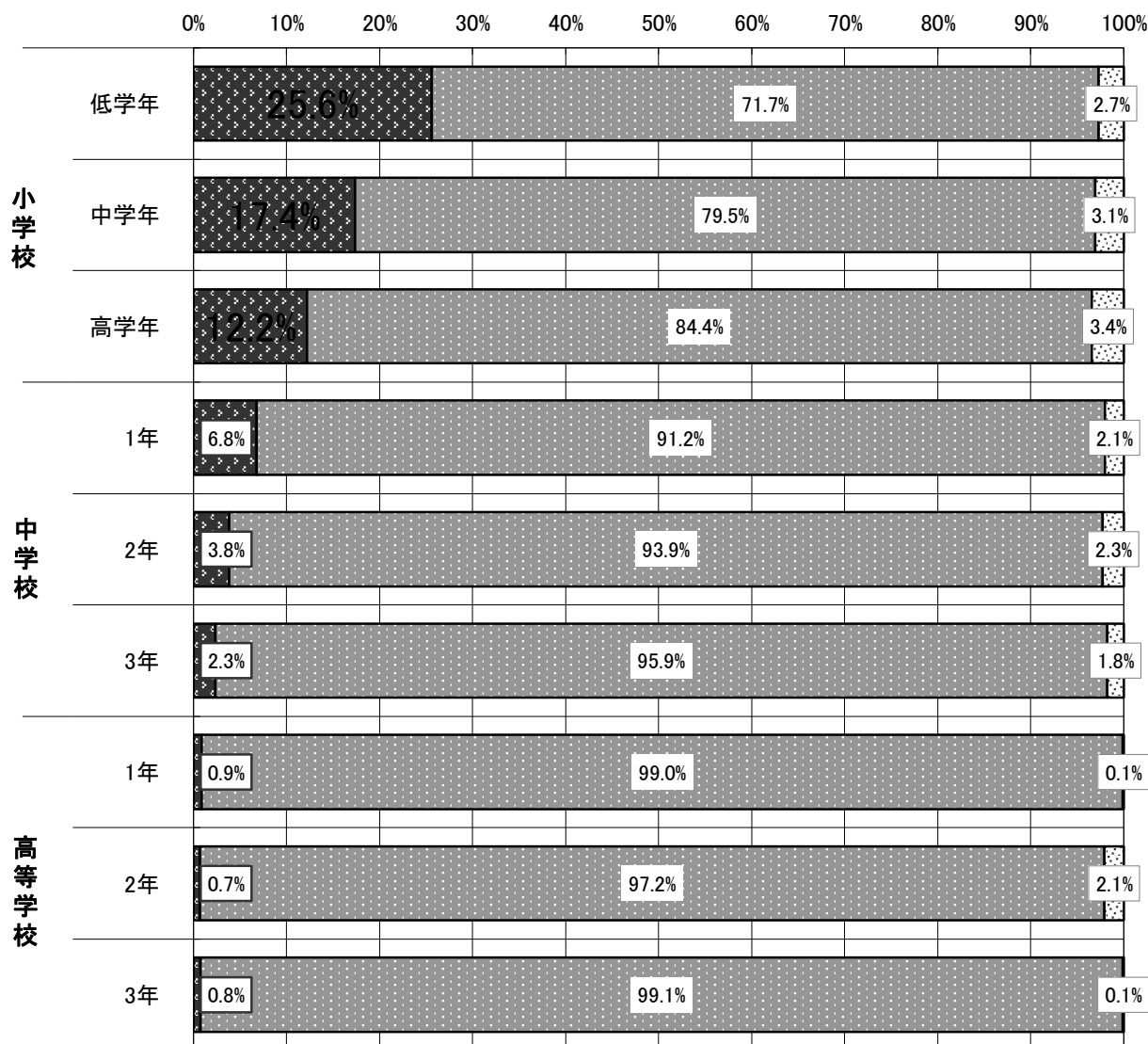
いじめを見聞きしたことがあるかという質問に対する児童生徒の学年別回答数

(人)

| | 小学校 | | | | | | 中学校 | | | 高等学校 | | | 全体 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 3年 | |
| ある | 4,004 | 3,366 | 2,776 | 2,247 | 1,979 | 1,611 | 932 | 514 | 313 | 19 | 15 | 17 | 17,793 |
| ない | 9,972 | 10,682 | 11,356 | 11,622 | 12,078 | 12,778 | 12,571 | 12,692 | 12,844 | 2,110 | 2,044 | 2,239 | 112,988 |
| 調査提出数 | 14,398 | 14,401 | 14,442 | 14,455 | 14,443 | 15,007 | 13,786 | 13,510 | 13,397 | 2,131 | 2,103 | 2,259 | 134,332 |
| 「ある」の割合 | 27.8% | 23.4% | 19.2% | 15.5% | 13.7% | 10.7% | 6.8% | 3.8% | 2.3% | 0.9% | 0.7% | 0.8% | 13.2% |

いじめを見聞きしたことがあるか

■ ある ■ ない □ 無回答



【考察】

- ・「ある」と回答する児童生徒は、学年が上がるごとに減少する。
- ・設問3のいじめの訴えよりも「見聞きした」回答が若干上回っている。
- ・他者の状況に気付いたり、気付いたことを誰かに伝えることの大切さについて伝えていくことが大切である。
- ・無回答は、言い出せていない可能性があるため、訴えやすい環境を整えることが大切である。
- ・大人に相談することで、解決してくれるという信頼感を与えることが、傍観者をつくらないことに繋がっていく。

8 今の学年になってから、いじめられている人を見たり、聞いたりしたことが“ある”と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。

【設問8】 設問7で「ア ある」と答えた人に聞きます。それはどんないじめですか。

(複数回答)

ア 仲間はずれや無視をされる

イ たたかれたり、けられたりする

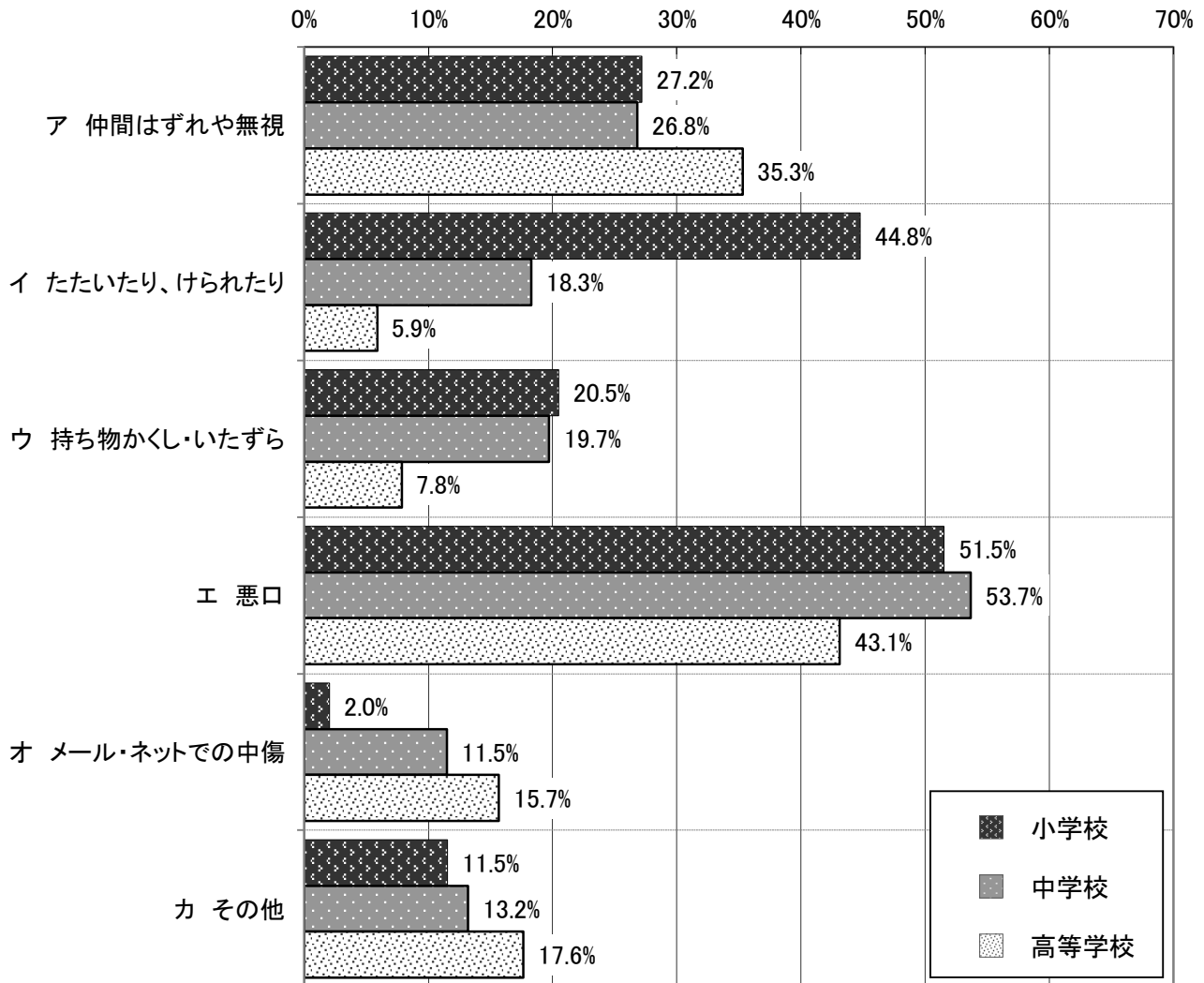
ウ 持ち物をかくされたり、いたずらされたりする

エ 悪口を言われる

オ 傷つく内容のメールが送られてきたり、インターネットに書きこまれたりする

カ その他

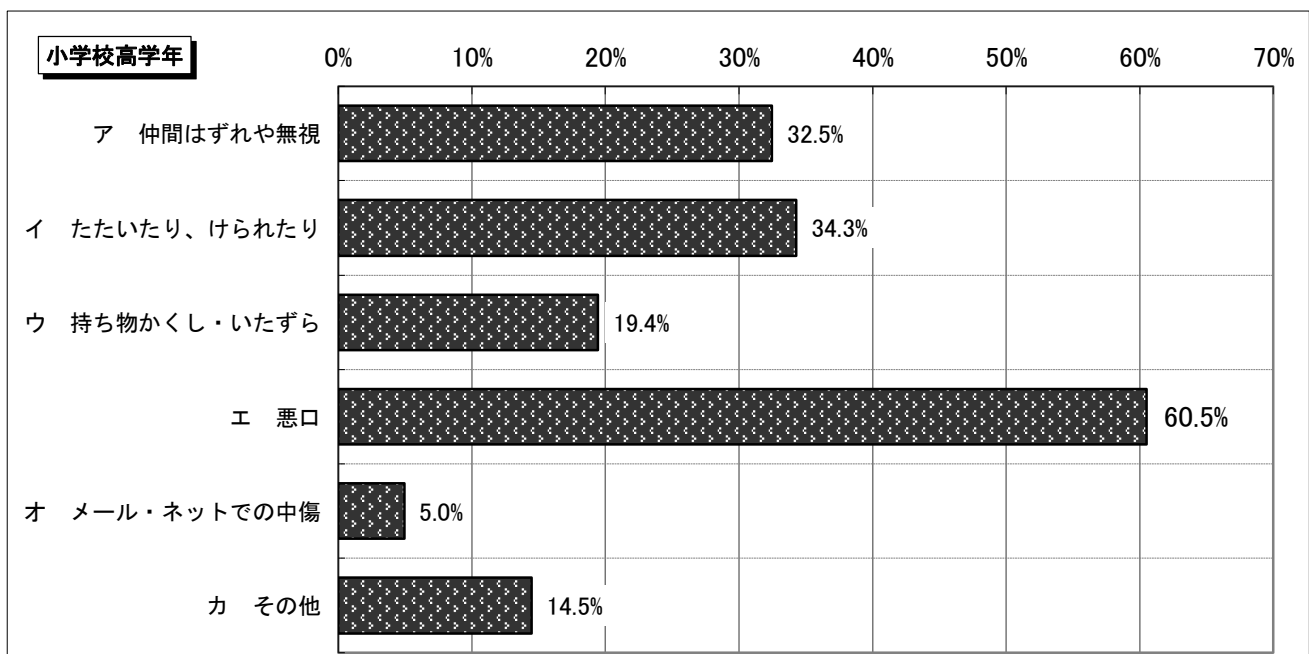
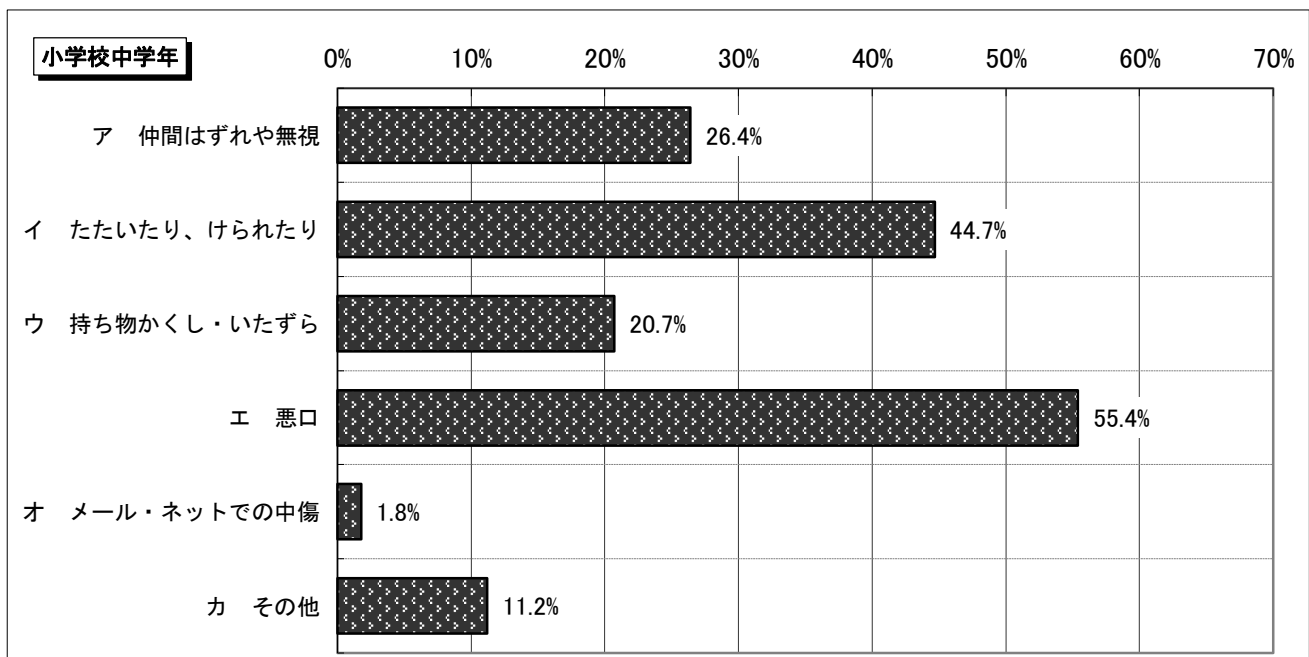
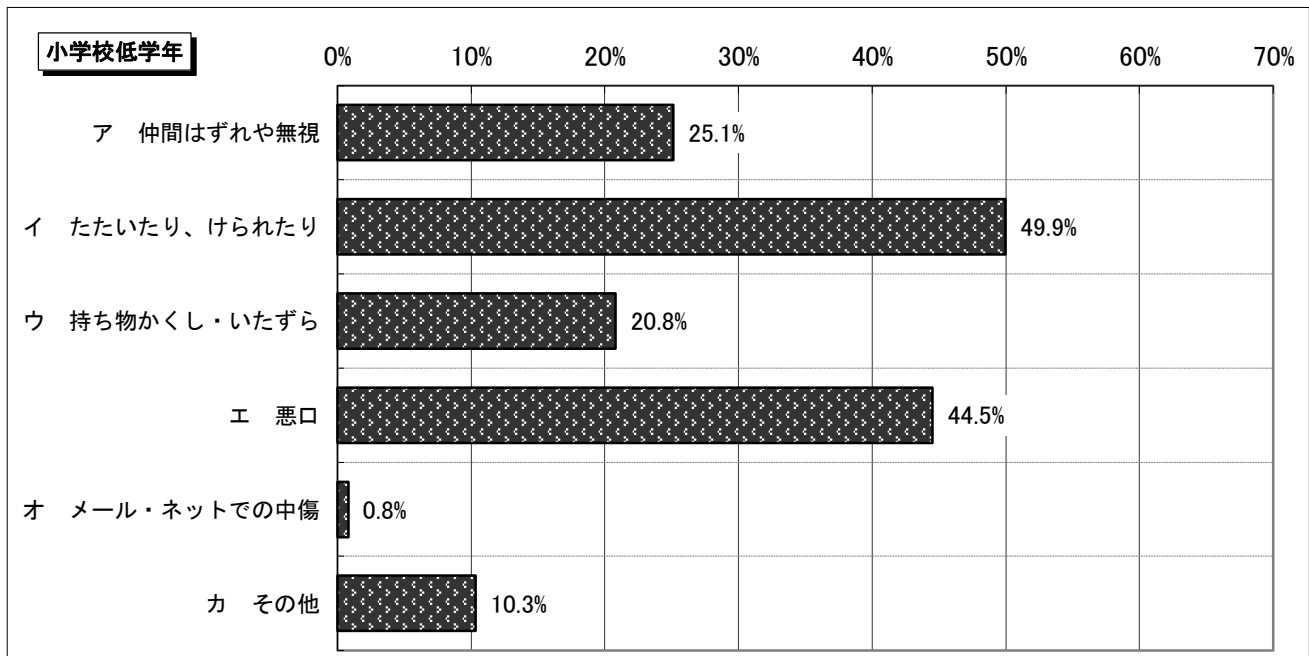
見聞きしたいじめの内容



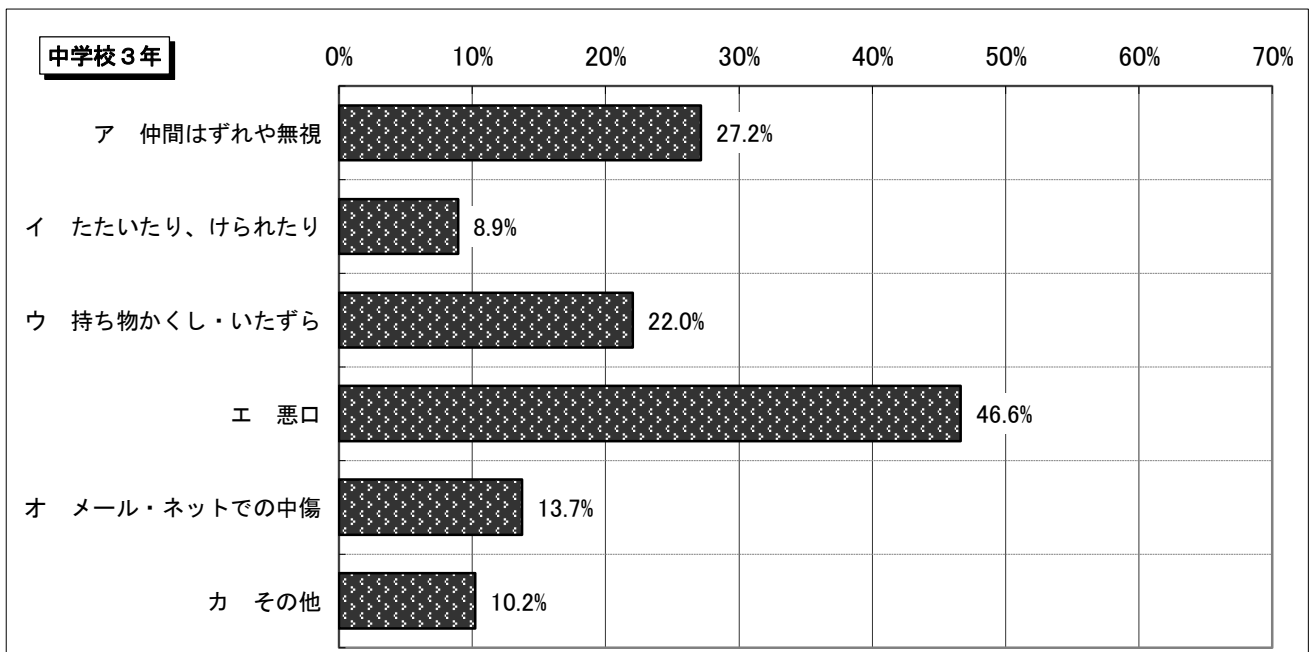
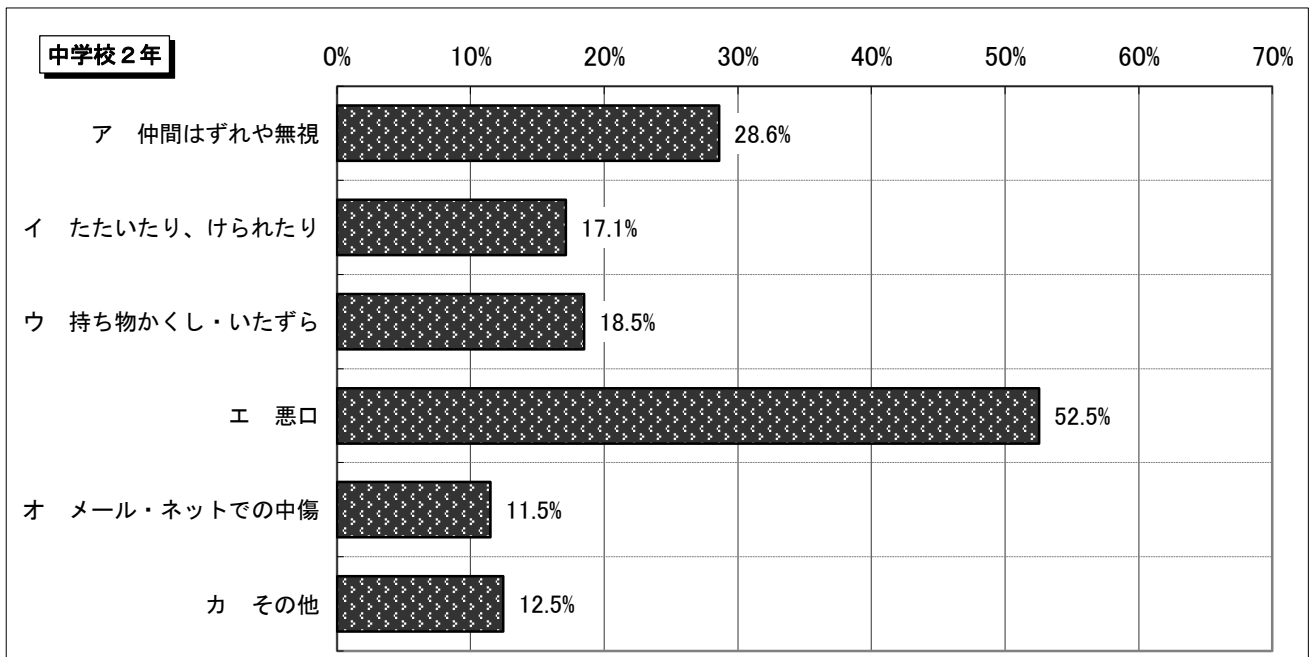
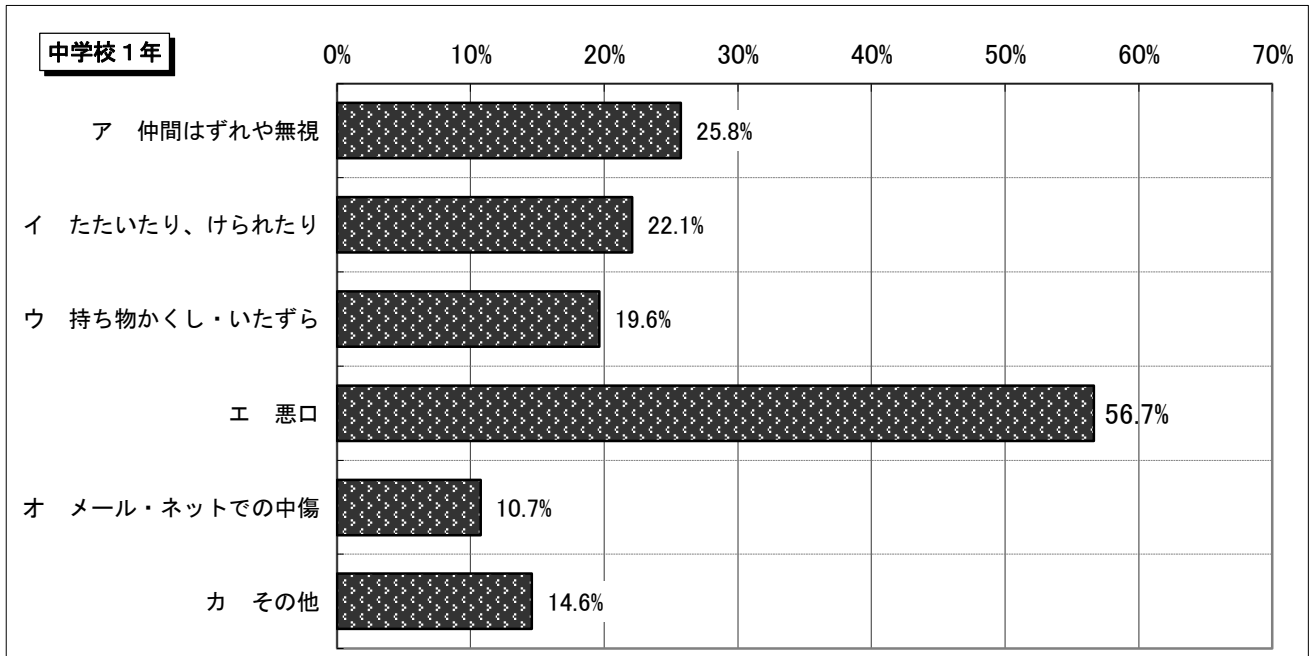
【考察】

- ・設問4の「いじめられたことが“ある”と答えた人」からの回答内容と同じ傾向である。
- ・特に、「メール・ネットでの中傷」については、学校だけでは発見しにくいいため、いじめを把握した子どもからの情報提供が大切になる。

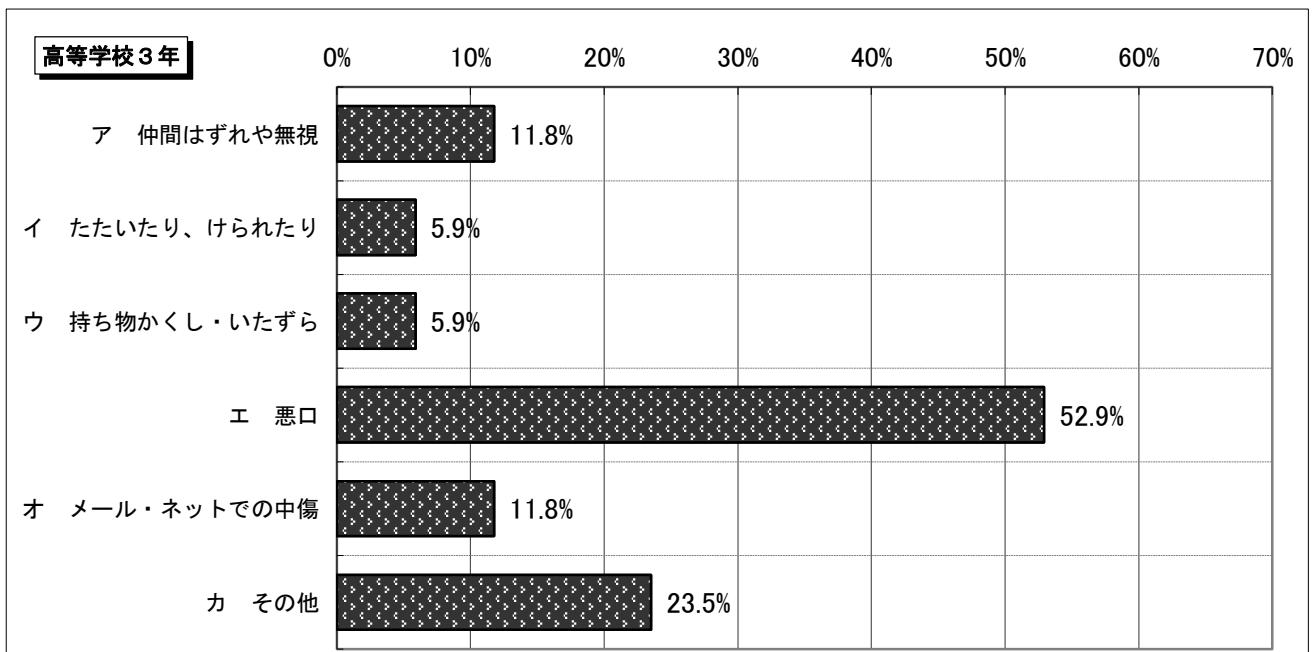
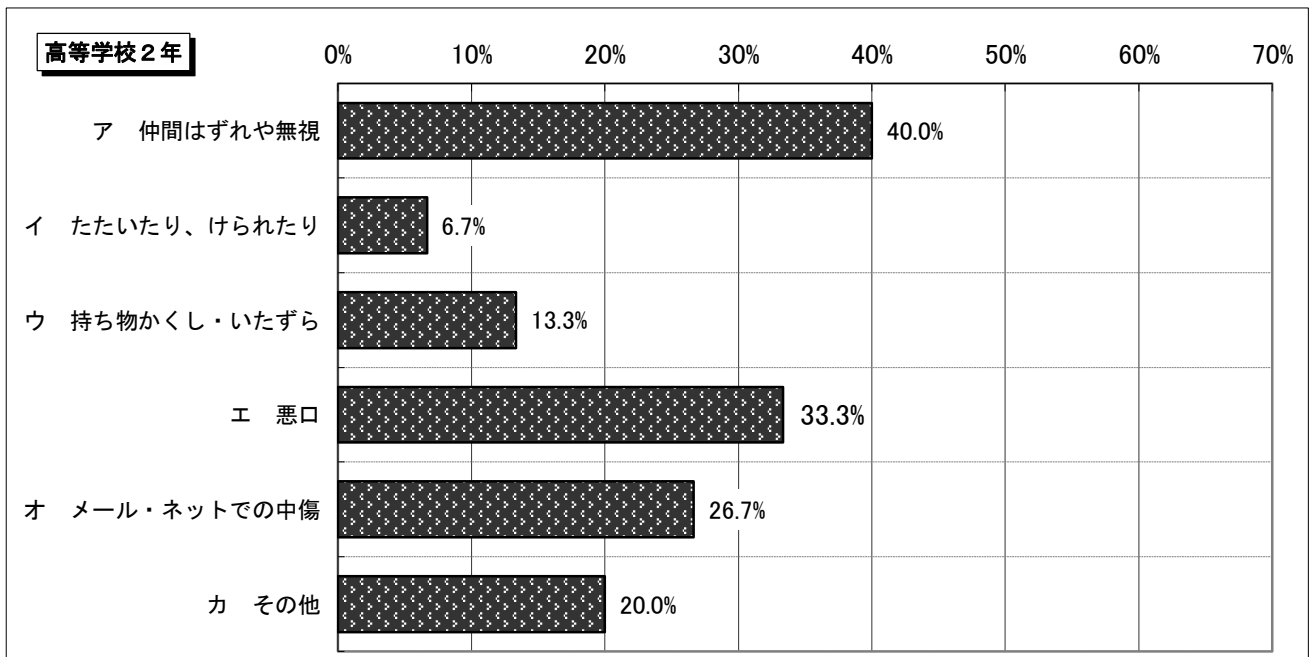
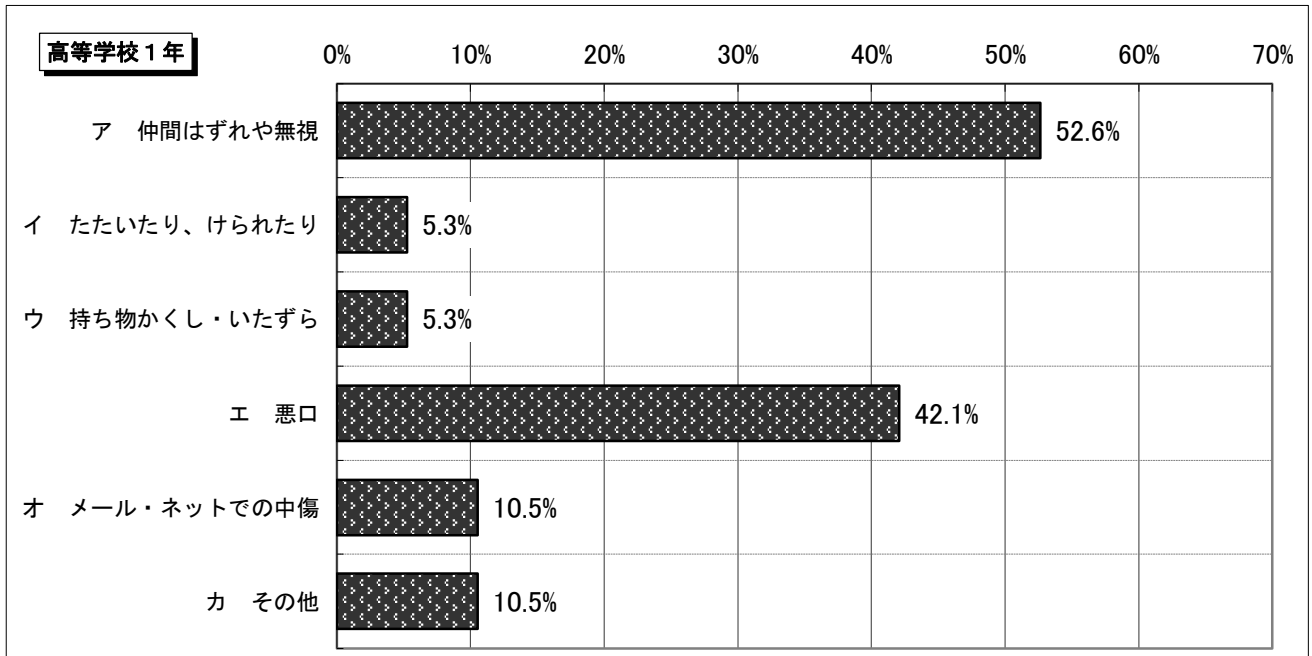
●見聞きしたいじめの内容＜小学校低・中・高学年別＞



●見聞きしたいじめの内容<中学校学年別>



●見聞きしたいじめの内容<高等学校学年別>



＜学校への調査の結果と分析＞

1 (1) 「今の学年になってから、いじめられたことがある」と答えた児童生徒数と、「いじめられている疑いがある」と教師がとらえた児童生徒数

【設問1 (1)】 児童生徒の「悩みやいじめに関するアンケート」の設問3において、「今の学年になってから、いじめられたことがある」と回答した児童生徒以外で、いじめられている疑いがあるとおもわれる児童生徒は何人いますか。

| | 小学校1年生 | 小学校2年生 | 小学校3年生 |
|-------------------------------|--------|--------|--------|
| いじめられたことがあると回答した児童生徒数 (人) | 3,834 | 2,938 | 2,416 |
| 上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数 (人) | 82 | 72 | 75 |
| 合計 (人) | 3,916 | 3,010 | 2,491 |

| | 小学校4年生 | 小学校5年生 | 小学校6年生 | 小計 |
|-------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| いじめられたことがあると回答した児童生徒数 (人) | 1,943 | 1,398 | 1,002 | 13,531 |
| 上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数 (人) | 68 | 74 | 81 | 452 |
| 合計 (人) | 2,011 | 1,472 | 1,083 | 13,983 |

| | 中学校1年生 | 中学校2年生 | 中学校3年生 | 小計 |
|-------------------------------|--------|--------|--------|-------|
| いじめられたことがあると回答した児童生徒数 (人) | 538 | 290 | 146 | 974 |
| 上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数 (人) | 48 | 42 | 27 | 117 |
| 合計 (人) | 586 | 332 | 173 | 1,091 |

| | 高等学校1年生 | 高等学校2年生 | 高等学校3年生 | 小計 |
|-------------------------------|---------|---------|---------|----|
| いじめられたことがあると回答した児童生徒数 (人) | 12 | 9 | 12 | 33 |
| 上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数 (人) | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 合計 (人) | 12 | 9 | 15 | 36 |

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計 |
|-------------------------------|--------|-------|------|--------|
| いじめられたことがあると回答した児童生徒数 (人) | 13,531 | 974 | 33 | 14,538 |
| 上記以外で教師がいじめの疑いがあるととらえている数 (人) | 452 | 117 | 3 | 572 |
| 合計 (人) | 13,983 | 1,091 | 36 | 15,110 |

【考察】

・児童生徒からの訴え以外に、教師が「いじめの疑い」として捉えていることは、学校がいじめを積極的に認知しようとしている姿勢の表れと捉えることができる。今後も、教師が子どもの状況を丁寧に見取り、子どもの発するわずかなサインを見逃さず、状況の改善に向けて積極的に支援することを基本とし、教師がいじめの兆候を捉えた場合には、組織的に対応を進めることが極めて重要である。

1 (2) いじめられている疑いがある児童生徒を把握した手だて

【設問1 (2)】 いじめられている疑いがある児童生徒の人数をどのような手だてで把握しましたか。(複数回答)

- ア 教師の観察によって把握した
- イ 本人ではない児童生徒からの教師への直接の訴えにより把握した
- ウ 保護者からの訴えにより把握した
- エ スクールカウンセラーからの報告により把握した
- オ その他

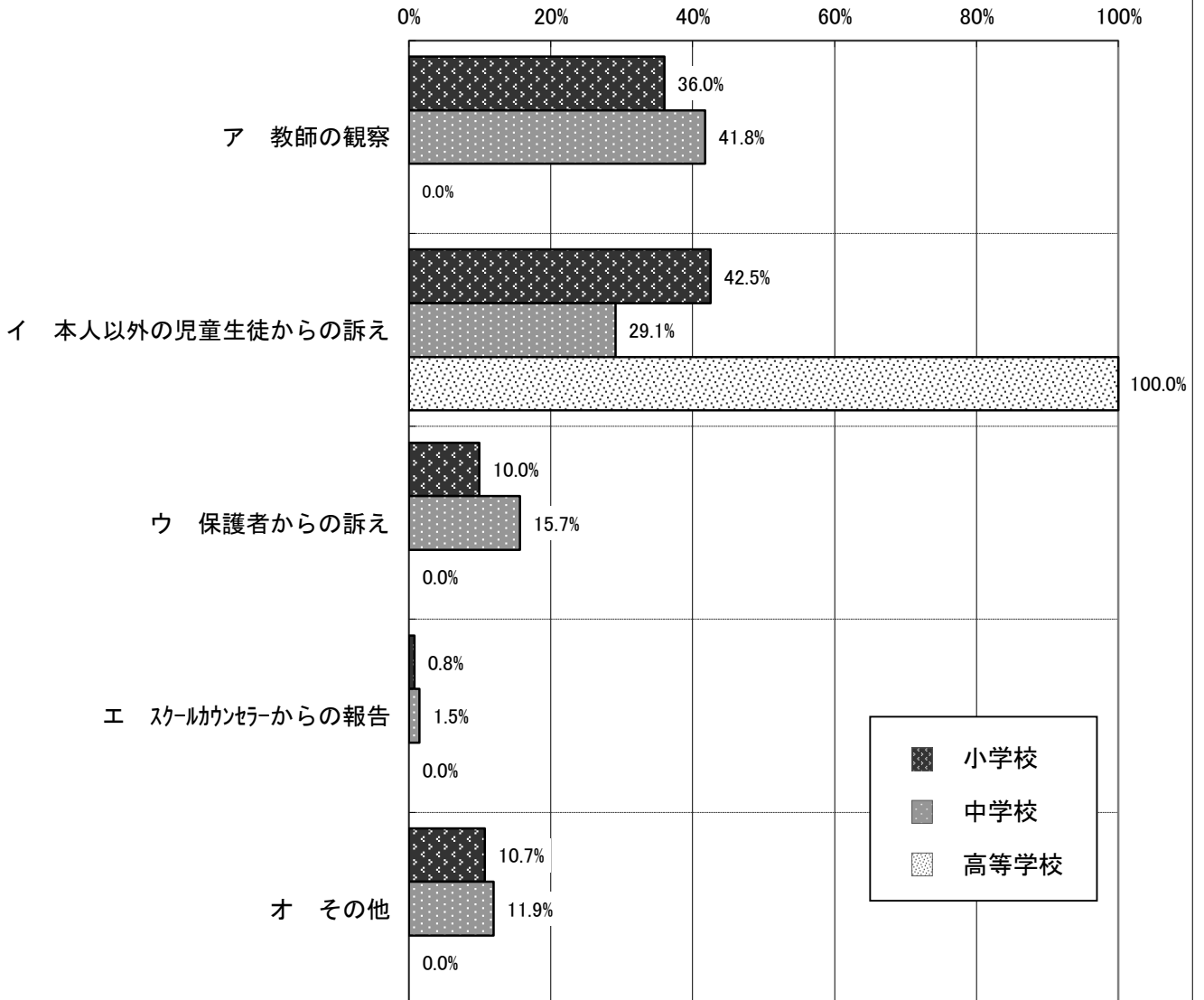
校種別件数 (件)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-----|-----|-----|------|-----|
| ア | 188 | 56 | 0 | 244 |
| イ | 222 | 39 | 3 | 264 |
| ウ | 52 | 21 | 0 | 73 |
| エ | 4 | 2 | 0 | 6 |
| オ | 56 | 16 | 0 | 72 |
| 総件数 | 522 | 134 | 3 | 659 |

校種別割合 (%)

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 全体 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| ア | 36.0% | 41.8% | 0.0% | 37.0% |
| イ | 42.5% | 29.1% | 100.0% | 40.1% |
| ウ | 10.0% | 15.7% | 0.0% | 11.1% |
| エ | 0.8% | 1.5% | 0.0% | 0.9% |
| オ | 10.7% | 11.9% | 0.0% | 10.9% |
| 総件数 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

いじめを把握した手だて



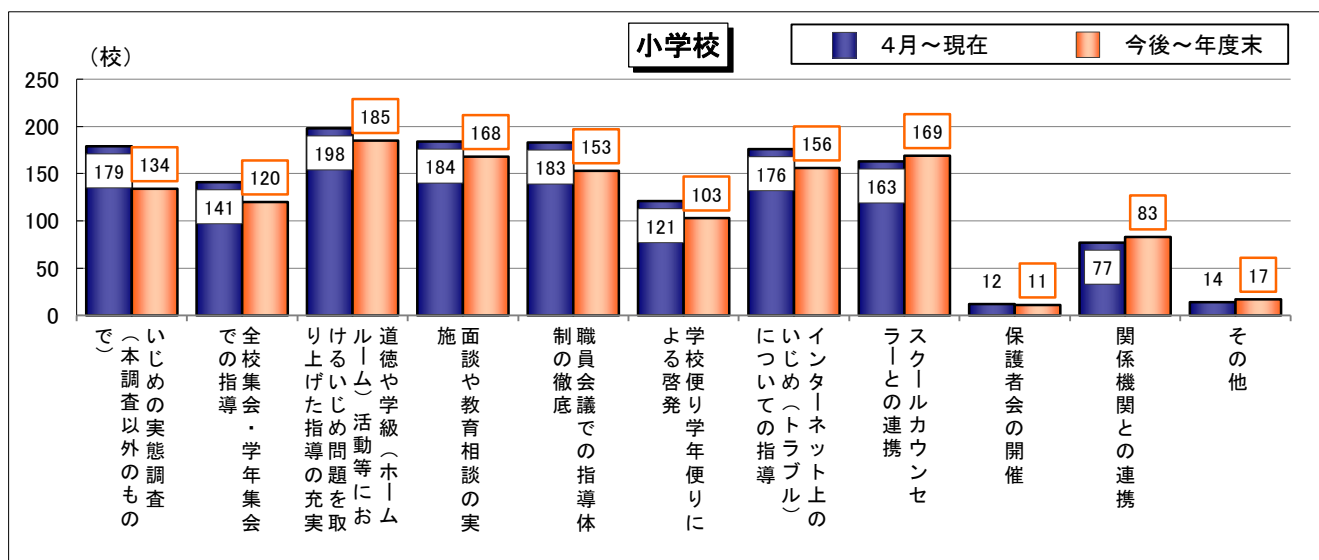
2 いじめ問題へのこれまでの取組と今後の取組

- 【設問2】 いじめ問題にかかわり、これまでどのような取組をしてきましたか。また、今後どのような取組を予定していますか。（複数回答）
- 1 いじめの実態調査（本調査以外のもの）
 - 2 全校集会・学年集会での指導
 - 3 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実
 - 4 面談や教育相談の実施
 - 5 職員会議での指導体制の徹底
 - 6 学校便り学年便りによる啓発
 - 7 インターネット上のいじめ（トラブル）についての指導
 - 8 スクールカウンセラーとの連携
 - 9 保護者会の開催
 - 10 関係機関との連携
 - 11 その他

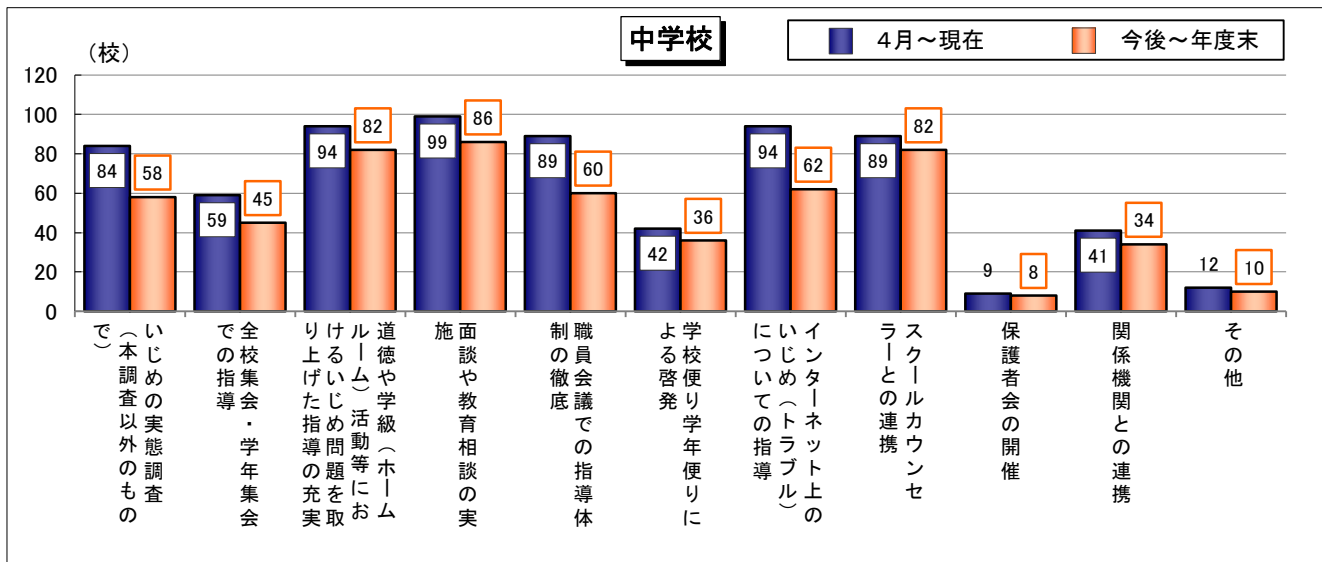
【考察】

- ・ほとんどの項目で「4月～現在」の方が「今後～年度末」よりも割合が高い。これは、各学校において、いじめ防止等の取組をできるだけ早い時期に行うことが効果的だと捉えていることが考えられる。
- ・「保護者会の開催」と「関係機関との連携」がどの校種においても低い。いじめへの対応は、学校のみならず社会総がかりで行う必要があるため、保護者や関係機関との一層の連携に努める。

| 小学校 | | 4月～現在 | 今後～年度末 |
|-----|--------------------------------------|-------|--------|
| 1 | いじめの実態調査（本調査以外のもの） | 179 | 134 |
| 2 | 全校集会・学年集会での指導 | 141 | 120 |
| 3 | 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実 | 198 | 185 |
| 4 | 面談や教育相談の実施 | 184 | 168 |
| 5 | 職員会議での指導体制の徹底 | 183 | 153 |
| 6 | 学校便り学年便りによる啓発 | 121 | 103 |
| 7 | インターネット上のいじめ（トラブル）についての指導 | 176 | 156 |
| 8 | スクールカウンセラーとの連携 | 163 | 169 |
| 9 | 保護者会の開催 | 12 | 11 |
| 10 | 関係機関との連携 | 77 | 83 |
| 11 | その他 | 14 | 17 |



| 中学校 | | 4月～現在 | 今後～年度末 |
|-----|--------------------------------------|-------|--------|
| 1 | いじめの実態調査（本調査以外のもの） | 84 | 58 |
| 2 | 全校集会・学年集会での指導 | 59 | 45 |
| 3 | 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実 | 94 | 82 |
| 4 | 面談や教育相談の実施 | 99 | 86 |
| 5 | 職員会議での指導体制の徹底 | 89 | 60 |
| 6 | 学校便り学年便りによる啓発 | 42 | 36 |
| 7 | インターネット上のいじめ（トラブル）についての指導 | 94 | 62 |
| 8 | スクールカウンセラーとの連携 | 89 | 82 |
| 9 | 保護者会の開催 | 9 | 8 |
| 10 | 関係機関との連携 | 41 | 34 |
| 11 | その他 | 12 | 10 |



| 高等学校 | | 4月～現在 | 今後～年度末 |
|------|--------------------------------------|-------|--------|
| 1 | いじめの実態調査（本調査以外のもの） | 4 | 3 |
| 2 | 全校集会・学年集会での指導 | 9 | 9 |
| 3 | 道徳や学級（ホームルーム）活動等におけるいじめ問題を取り上げた指導の充実 | 6 | 6 |
| 4 | 面談や教育相談の実施 | 11 | 11 |
| 5 | 職員会議での指導体制の徹底 | 9 | 7 |
| 6 | 学校便り学年便りによる啓発 | 5 | 6 |
| 7 | インターネット上のいじめ（トラブル）についての指導 | 10 | 7 |
| 8 | スクールカウンセラーとの連携 | 12 | 12 |
| 9 | 保護者会の開催 | 0 | 0 |
| 10 | 関係機関との連携 | 6 | 4 |
| 11 | その他 | 3 | 3 |

